

# 訪日外国人消費動向調査 【トピックス分析】

## 訪日外国人観光客の 地域における動態及び消費動向について

本トピックス分析は、「訪日外国人消費動向調査」のデータを利用し、地方部を訪れた訪日外国人観光客の動態と消費動向について詳細な分析を行ったものである。

2018年より新たに開始された「B1地域調査」の結果を用いて、北陸・山陰・四国・九州に属する14の県を対象に、それぞれの県を訪問した訪日外国人観光客を抽出し、訪問地のパターンと宿泊、消費動向を集計した。各県を訪れた訪日外国人は、同じ訪日旅行中に当該県以外のどこを訪れたのか、また県内ではどの程度の期間滞在し、どの程度消費をしたのか、などの情報を本分析結果から把握することが可能である。

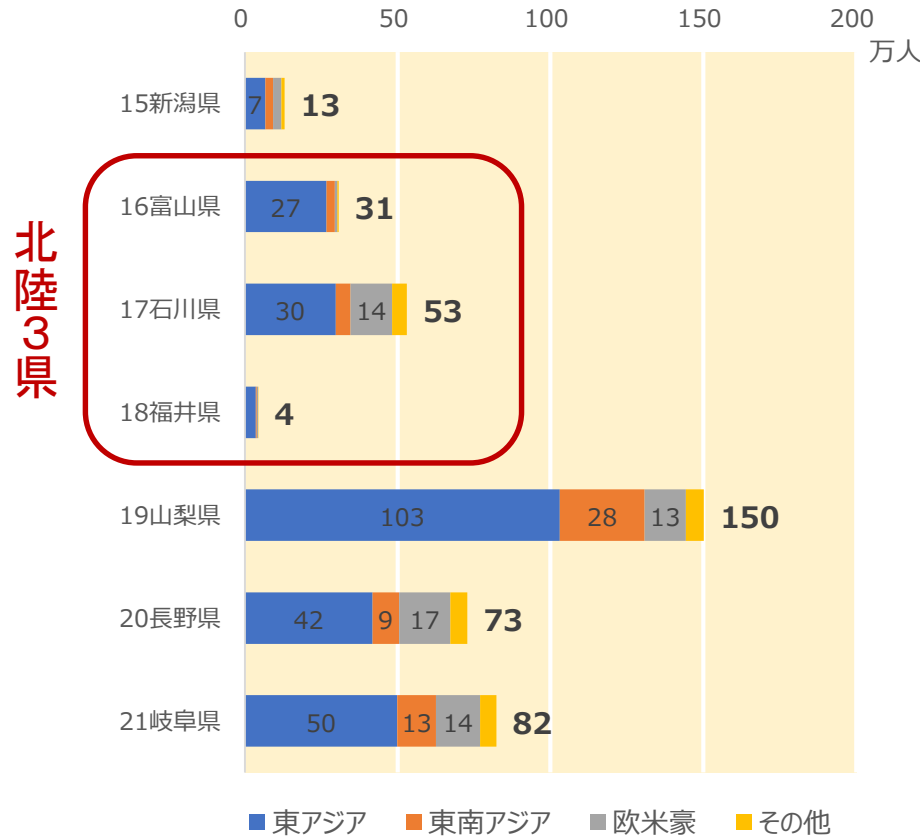
観光庁 観光戦略課 観光統計調査室

# 【北陸・中部】訪日観光客の県毎の訪問者数（推計）

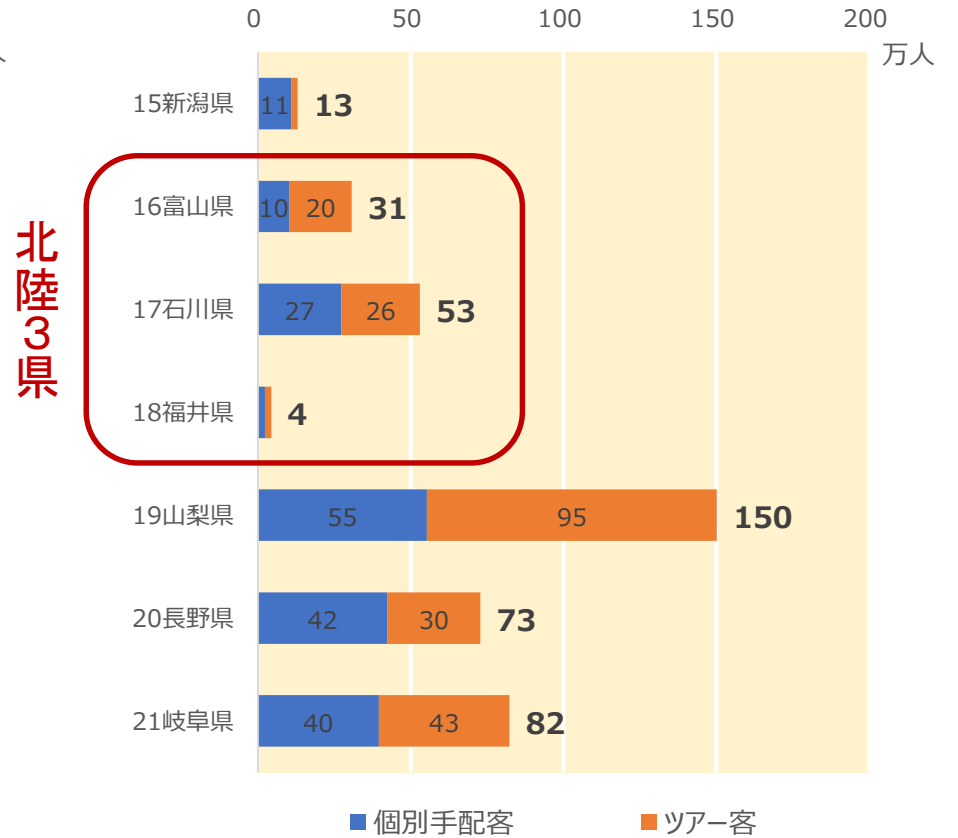
北陸信越・中部地方内を訪れた観光・レジャー目的の訪日外国人旅行者数では**山梨県**が最も多い。北陸3県に着目すると、**石川県**が最も多く、次いで**富山県**が多い。

## 2019年

### 観光・レジャー目的客【国籍・地域別】



### 観光・レジャー目的客【旅行手配方法別】

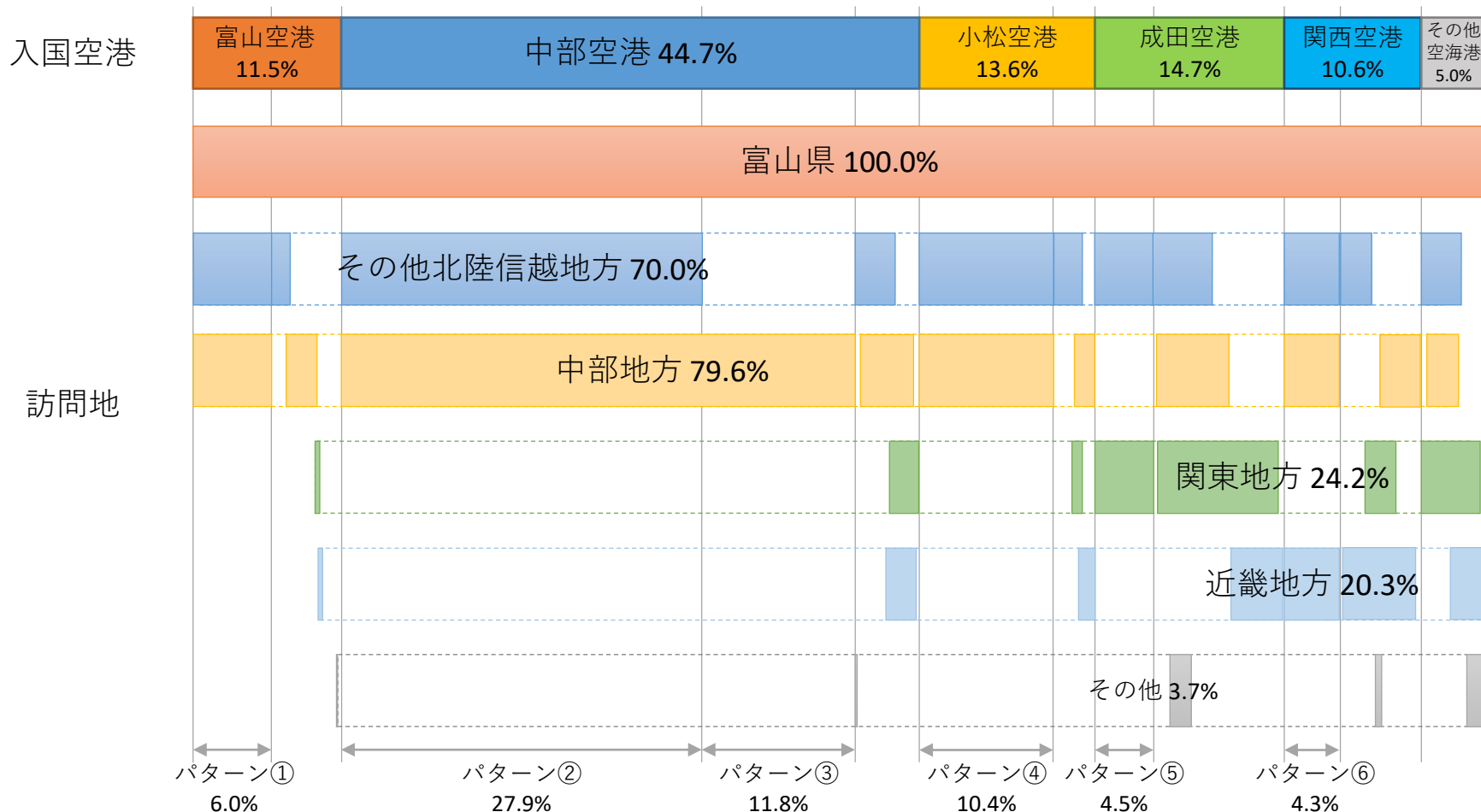


注) 上記グラフの数値は観光庁「訪日外国人消費動向調査」の結果から導出した推計値。標本調査であり、母集団復元推計は行っているが、標本誤差が含まれる点に留意が必要。「観光・レジャー」目的の訪日外国人のみを集計しており、ビジネス客やMICE客、親族・知人訪問客、留学生などを含まない。

東アジア：韓国・台湾・香港・中国、東南アジア：タイ・シンガポール・マレーシア・インドネシア・フィリピン・ベトナム、欧米豪：英国、ドイツ、フランス、イタリア、スペイン、米国、カナダ、豪州

# 【富山県訪問者】観光客の訪問パターン（18-19年）

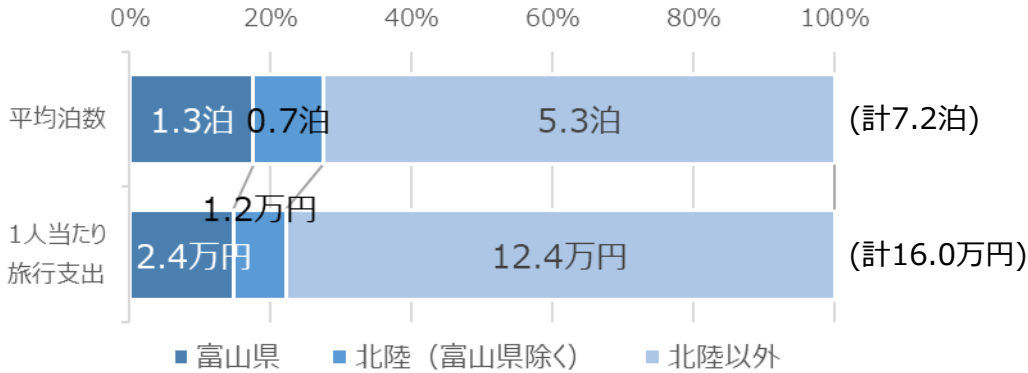
中部空港から入国し、中部地方やその他北陸信越地方と組み合わせて訪問するパターンが最も多い。  
 例えば、パターン②は中部空港から入国し富山県と北陸信越地方、中部地方を訪問した旅行者の割合が27.9%であること、パターン③は中部空港から入国し富山県と中部地方を訪問した旅行者の割合が11.8%であることを示している。



注) 数値は観光庁「訪日外国人消費動向調査」の結果から導出した推計値。標本調査であり、母集団復元推計は行っているが、標本誤差が含まれる点に留意が必要。  
 本資料では「観光・レジャー」目的の訪日外国人のみを集計対象としており、ビジネス客やMICE客、親族・知人訪問客、留学生などは含まれない。  
 訪問地に入出国空港への立ち寄り含まれていない。上の図において、「その他北陸信越地方」は新潟、石川、長野、「中部地方」は静岡、三重、福井、愛知、岐阜を指す。

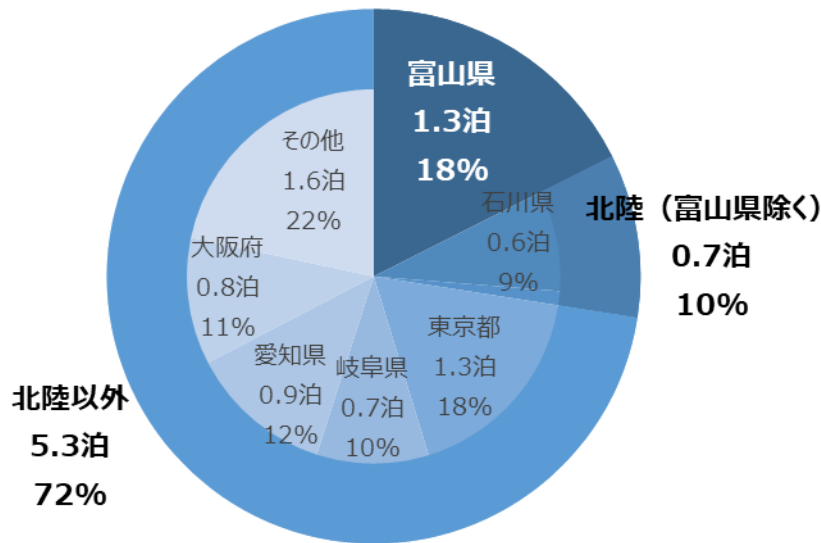
# 【富山県訪問者】平均泊数と旅行支出（2019年）

訪問地別にみる平均泊数と1人当たり旅行支出

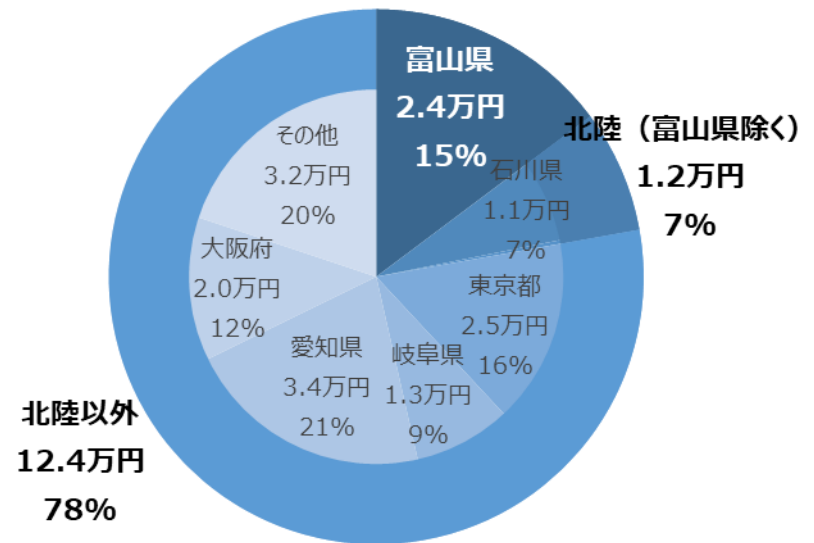


訪日旅行中に**富山県**を訪問した人を抽出し、訪日全日程の平均泊数と旅行支出をみると、**富山県**での泊数の割合は18%、旅行支出の割合は15%であった。

平均泊数の訪問地別構成比



1人当たり旅行支出の訪問地別構成比

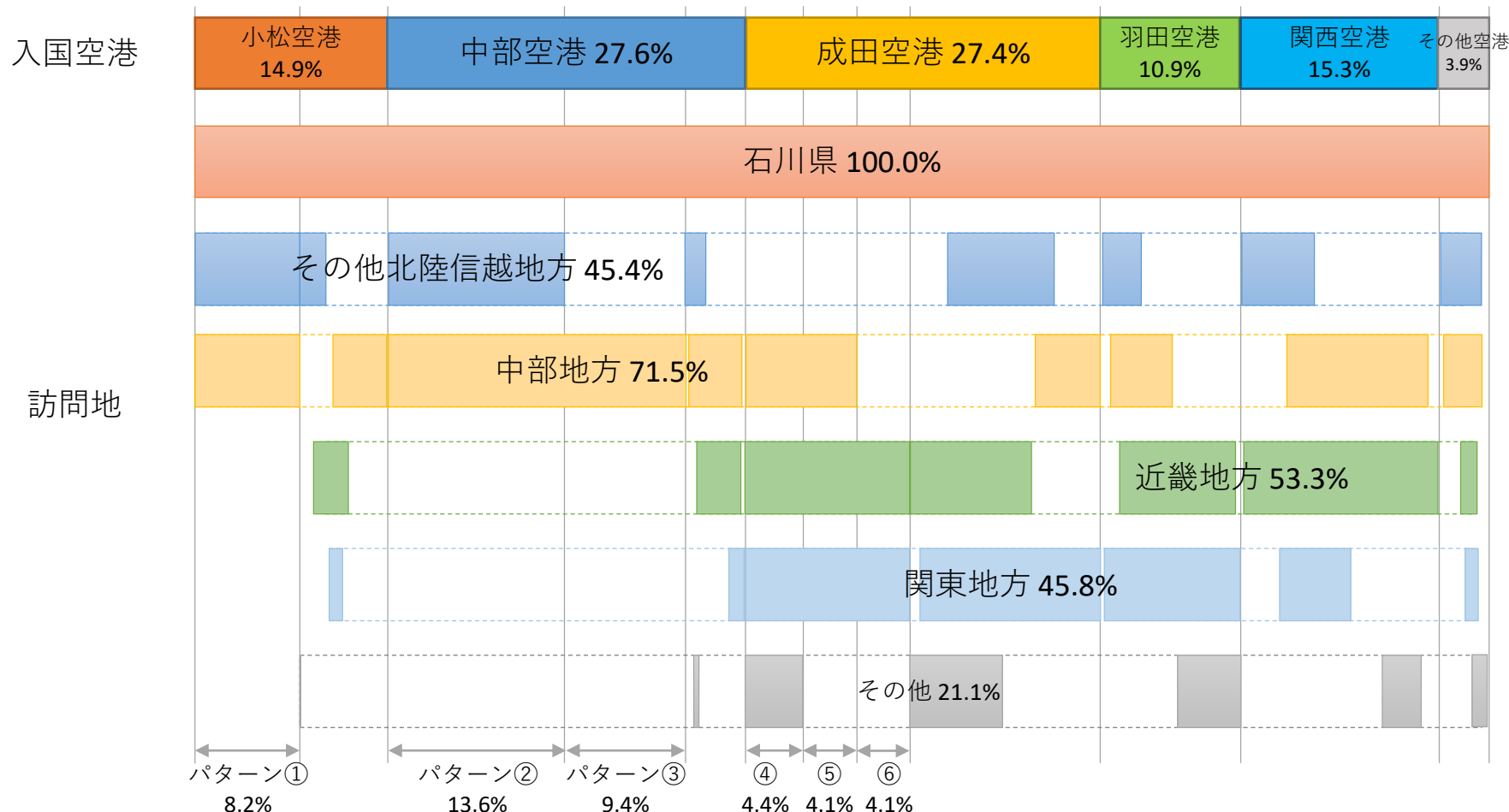


注) 上記グラフの数値は観光庁「訪日外国人消費動向調査」の結果から導出した推計値。標本調査であり、母集団復元推計は行っているが、標本誤差が含まれる点に留意が必要。本資料では「観光・レジャー」目的の訪日外国人のみを集計対象としており、ビジネス客やMICE客、親族・知人訪問客、留学生などは含まれない。「旅行消費額」にはパッケージツアー参加費の国内収入分が含まれ、都道府県間交通費は含まれない。

# 【石川県訪問者】観光客の訪問パターン（18-19年）

中部空港や成田空港からの入国者が多い。全体の約7割が中部地方と組み合わせて訪問している。

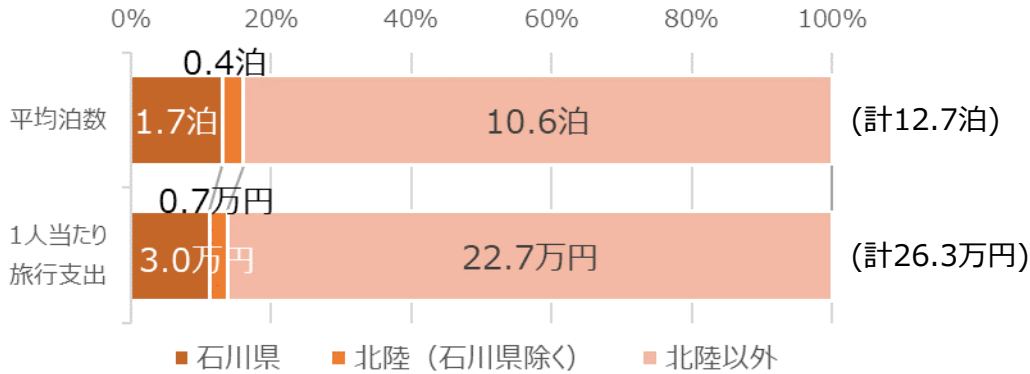
例えば、パターン②は中部空港から入国し石川県と北陸信越地方、中部地方を訪問した旅行者の割合が13.6%であること、パターン③は中部空港から入国し石川県と中部地方を訪問した旅行者の割合が9.4%であることを示している。



注) 数値は観光庁「訪日外国人消費動向調査」の結果から導出した推計値。標本調査であり、母集団復元推計は行っているが、標本誤差が含まれる点に留意が必要。本資料では「観光・レジャー」目的の訪日外国人のみを集計対象としており、ビジネス客やMICE客、親族・知人訪問客、留学生などは含まれない。訪問地に入出国空港への立ち寄り含まれていない。上の図において、「その他北陸信越地方」は新潟、富山、長野、「中部地方」は静岡、三重、福井、愛知、岐阜を指す。

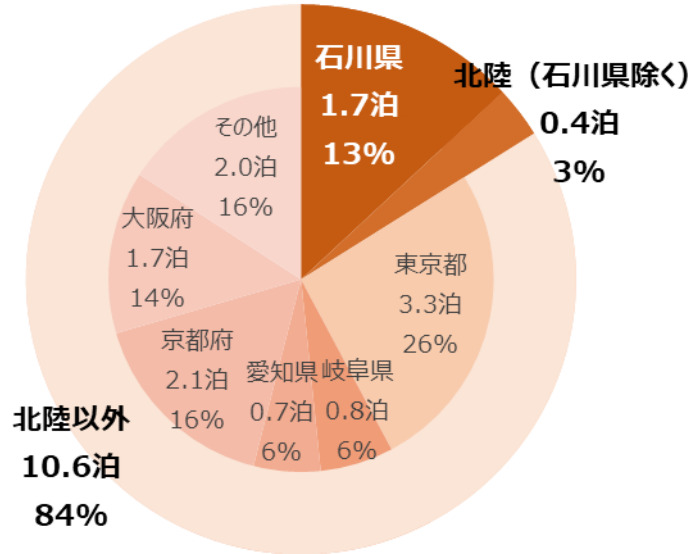
# 【石川県訪問者】平均泊数と旅行支出（2019年）

訪問地別にみる平均泊数と1人当たり旅行支出

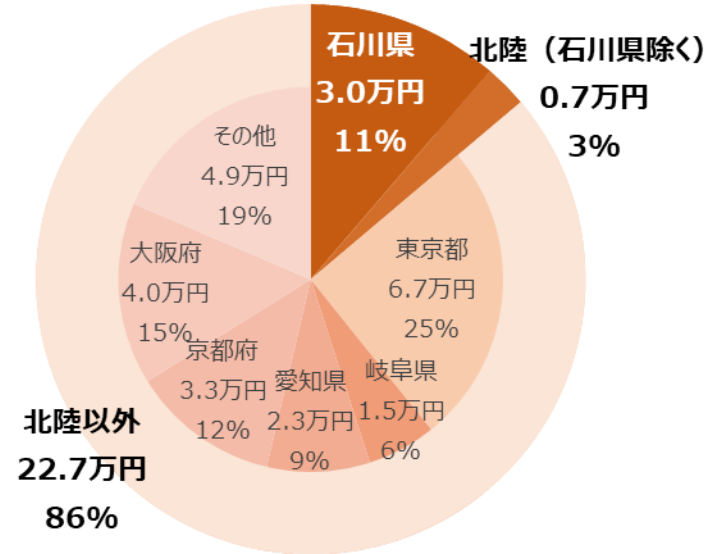


訪日旅行中に**石川県**を訪問した人を抽出し、訪日全日程の平均泊数と旅行支出をみると、**石川県**での泊数の割合は13%、旅行支出の割合は11%であった。

平均泊数の訪問地別構成比



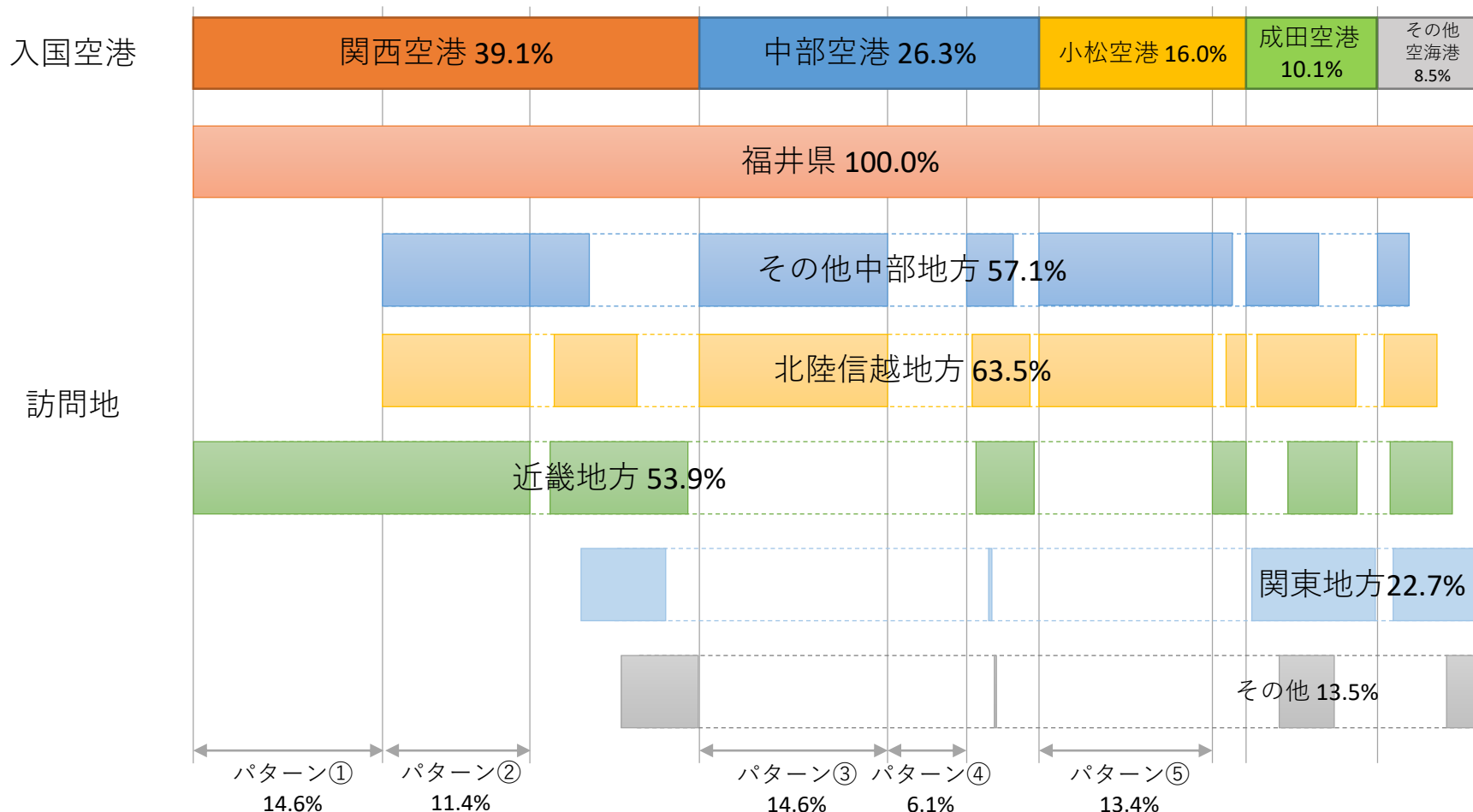
1人当たり旅行支出の訪問地別構成比



注) 上記グラフの数値は観光庁「訪日外国人消費動向調査」の結果から導出した推計値。標本調査であり、母集団復元推計は行っているが、標本誤差が含まれる点に留意が必要。本資料では「観光・レジャー」目的の訪日外国人のみを集計対象としており、ビジネス客やMICE客、親族・知人訪問客、留学生などは含まれない。「旅行消費額」にはパッケージツアー参加費の国内収入分が含まれ、都道府県間交通費は含まれない。

# 【福井県訪問者】観光客の訪問パターン（18-19年）

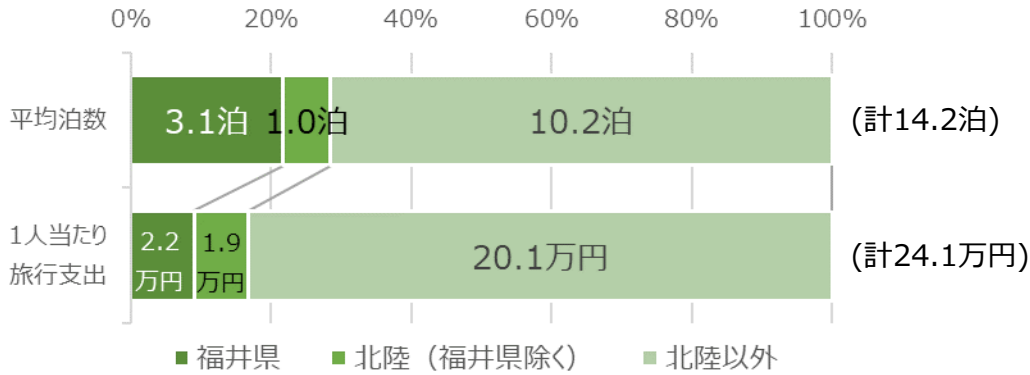
関西空港や中部空港から入国し、中部地方や北陸信越地方と組み合わせて訪問するパターンが多い。  
 例えば、パターン①は関西空港から入国し福井県と近畿地方を訪問した旅行者の割合が14.6%であること、パターン③は中部空港から入国し福井県と中部地方、北陸信越地方を訪問した旅行者の割合が14.6%であることを示している。



注) 数値は観光庁「訪日外国人消費動向調査」の結果から導出した推計値。標本調査であり、母集団復元推計は行っているが、標本誤差が含まれる点に留意が必要。  
 本資料では「観光・レジャー」目的の訪日外国人のみを集計対象としており、ビジネス客やMICE客、親族・知人訪問客、留学生などは含まれない。  
 訪問地に入出国空港への立ち寄り含まれていない。上の図において、「その他中部地方」は静岡、三重、愛知、岐阜、「北陸信越地方」は新潟、富山、石川、長野を指す。

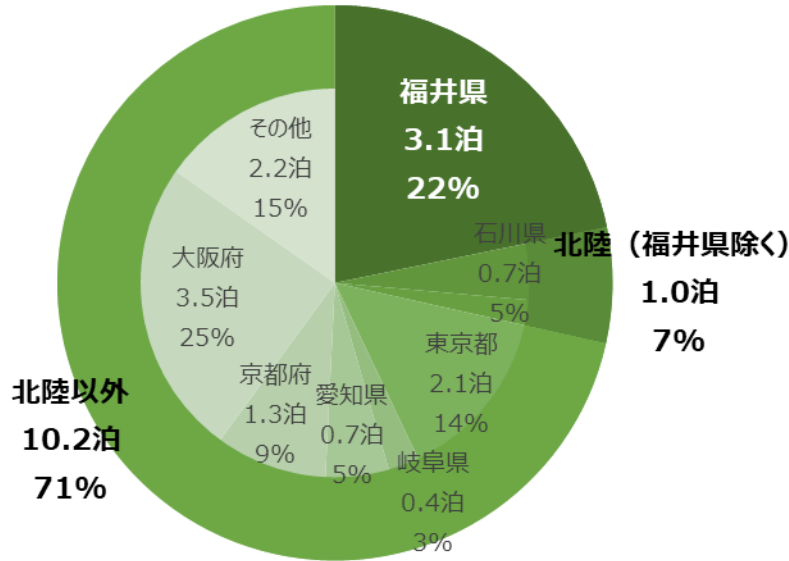
# 【福井県訪問者】平均泊数と旅行支出（2019年）

訪問地別にみる平均泊数と1人当たり旅行支出

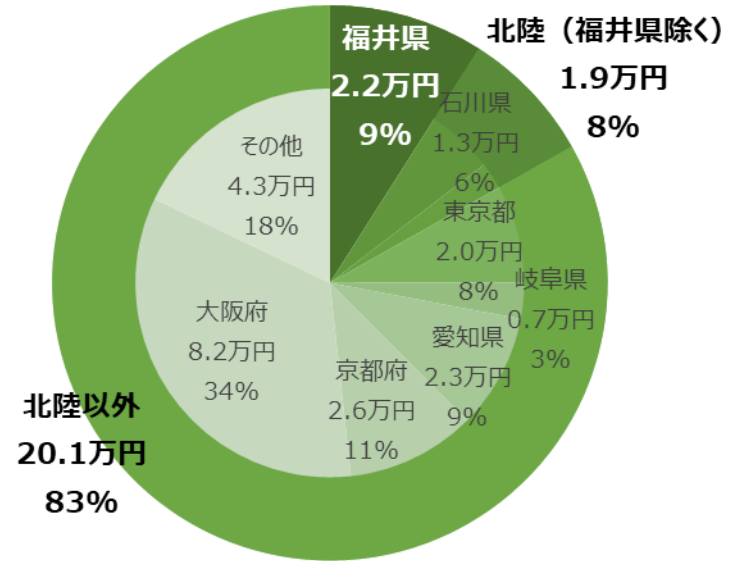


訪日旅行中に**福井県**を訪問した人を抽出し、訪日全日程の平均泊数と旅行支出をみると、**福井県**での泊数の割合は22%、旅行支出の割合は9%であった。

平均泊数の訪問地別構成比



1人当たり旅行支出の訪問地別構成比



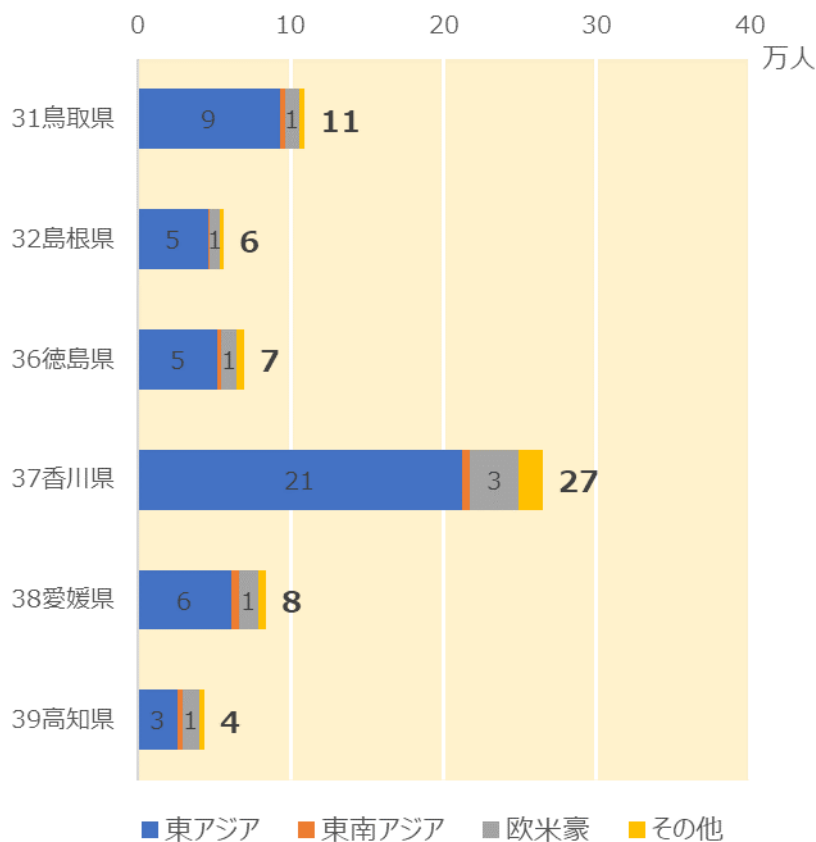
注) 上記グラフの数値は観光庁「訪日外国人消費動向調査」の結果から導出した推計値。標本調査であり、母集団復元推計は行っているが、標本誤差が含まれる点に留意が必要。本資料では「観光・レジャー」目的の訪日外国人のみを集計対象としており、ビジネス客やMICE客、親族・知人訪問客、留学生などは含まれない。「旅行消費額」にはパッケージツアー参加費の国内収入分が含まれ、都道府県間交通費は含まれない。



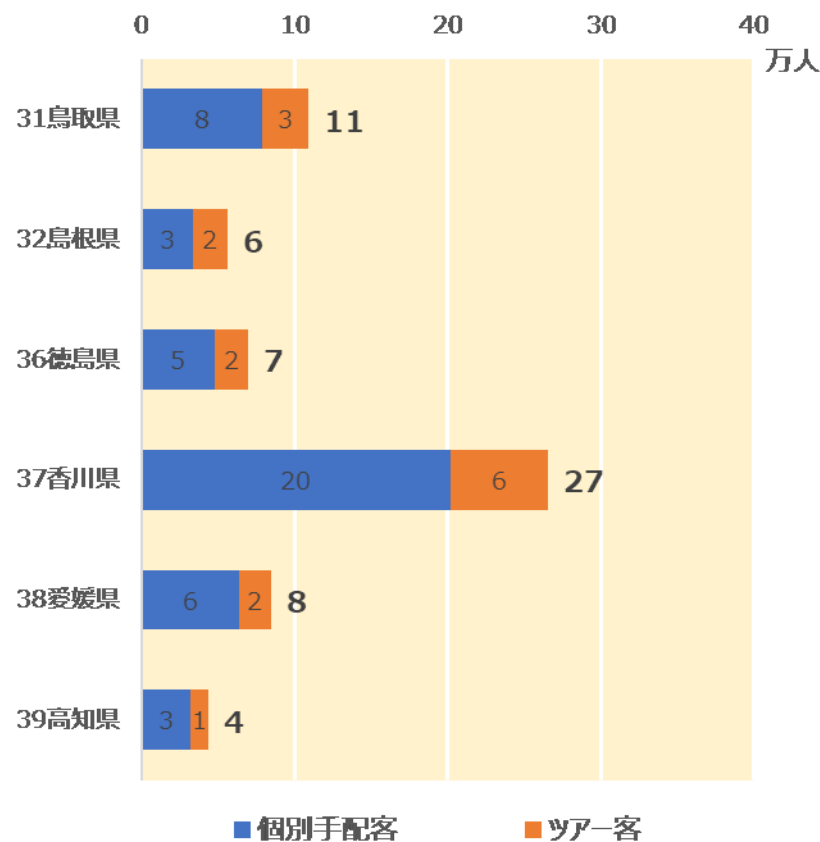
# 【山陰・四国地方】訪日観光客の県毎の訪問者数（推計）

山陰・四国地方内の各県を訪れた観光・レジャー目的の訪日外国人旅行者数は香川県が最も多く、次いで鳥取県が多い。香川県には欧米豪からおよそ3万人が訪れている。

## 2019年 観光・レジャー目的客【国籍・地域別】



## 観光・レジャー目的客【旅行手配方法別】



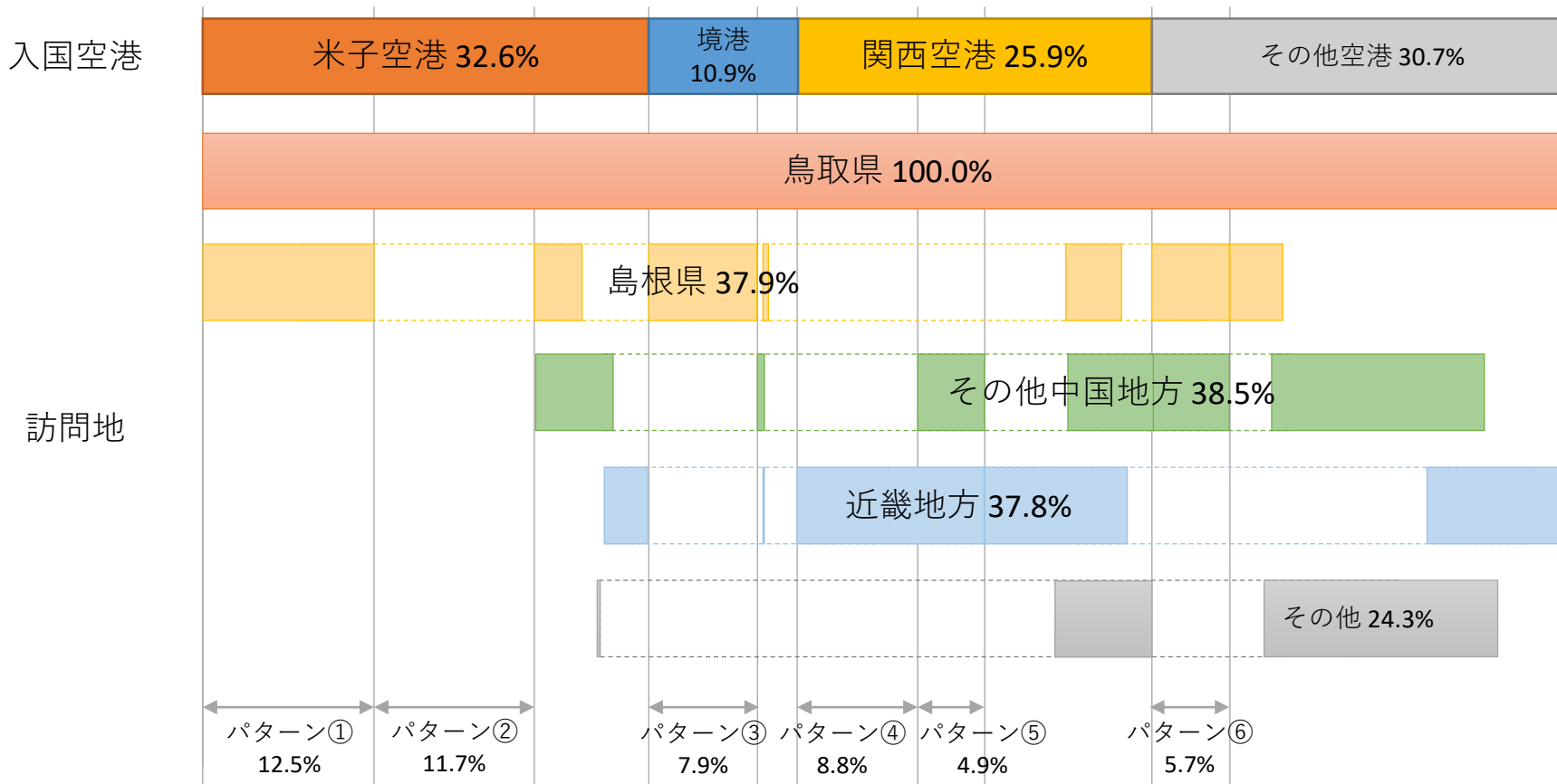
注) 上記グラフの数値は観光庁「訪日外国人消費動向調査」の結果から導出した推計値。標本調査であり、母集団復元推計は行っているが、標本誤差が含まれる点に留意が必要。「観光・レジャー」目的の訪日外国人のみを集計しており、ビジネス客やMICE客、親族・知人訪問客、留学生などを含まない。

東アジア：韓国・台湾・香港・中国、東南アジア：タイ・シンガポール・マレーシア・インドネシア・フィリピン・ベトナム、欧米豪：英国・ドイツ・フランス・イタリア・スペイン・米国・カナダ・豪州

# 【鳥取県訪問者】観光客の訪問パターン（18-19年）

米子空港や関西空港からの入国者が多い。約4割が**島根県**と組み合わせて訪問している。

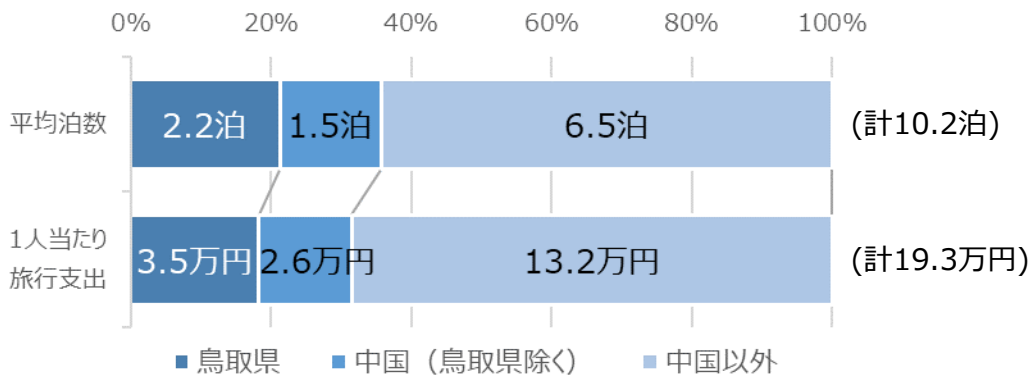
例えば、パターン①は米子空港から入国し鳥取県と島根県を訪問した旅行者の割合が12.5%であること、パターン④は関西空港から入国し鳥取県と近畿地方を訪問した旅行者の割合が8.8%であることを示している。



注) 数値は観光庁「訪日外国人消費動向調査」の結果から導出した推計値。標本調査であり、母集団復元推計は行っているが、標本誤差が含まれる点に留意が必要。本資料では「観光・レジャー」目的の訪日外国人のみを集計対象としており、ビジネス客やMICE客、親族・知人訪問客、留学生などは含まれない。訪問地に入出国空港への立ち寄り含まれていない。「その他中国地方」は岡山県、広島県、山口県を指す。

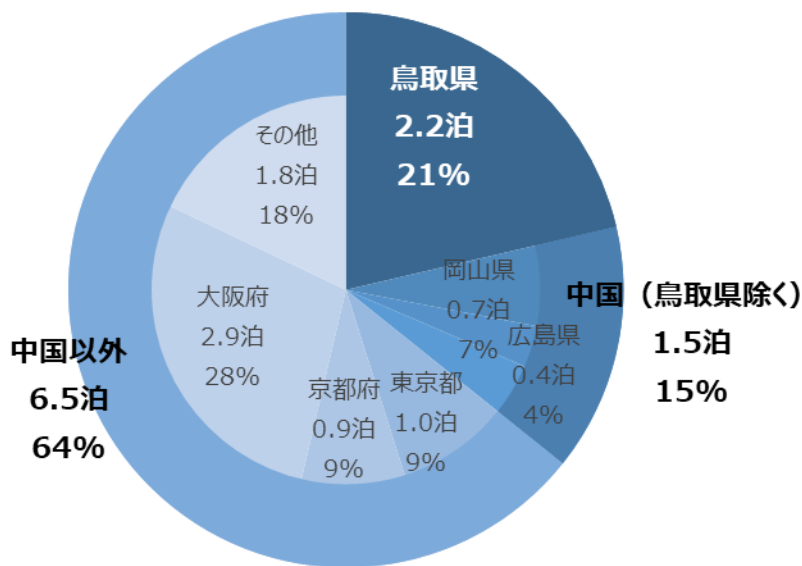
# 【鳥取県訪問者】平均泊数と旅行支出（2019年）

訪問地別にみる平均泊数と1人当たり旅行支出

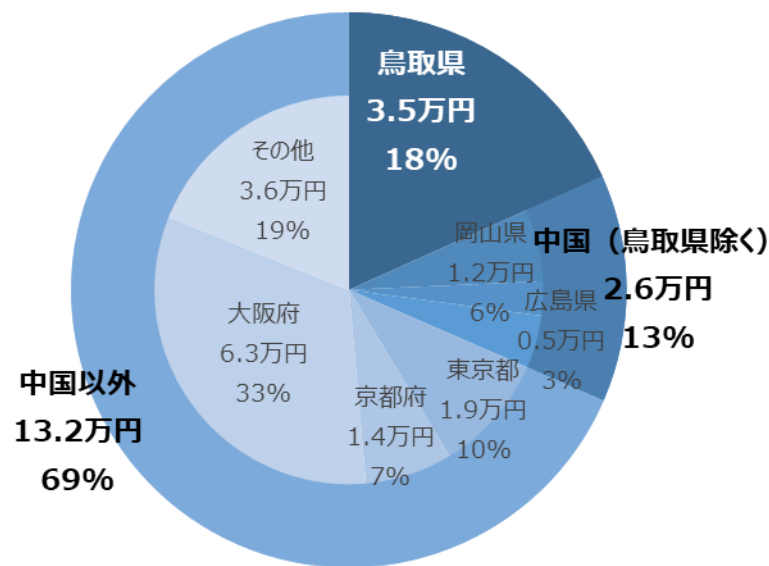


訪日旅行中に**鳥取県**を訪問した人を抽出し、訪日全日程の平均泊数と旅行支出をみると、**鳥取県**での泊数の割合は21%、旅行支出の割合は18%であった。

平均泊数の訪問地別構成比



1人当たり旅行支出の訪問地別構成比

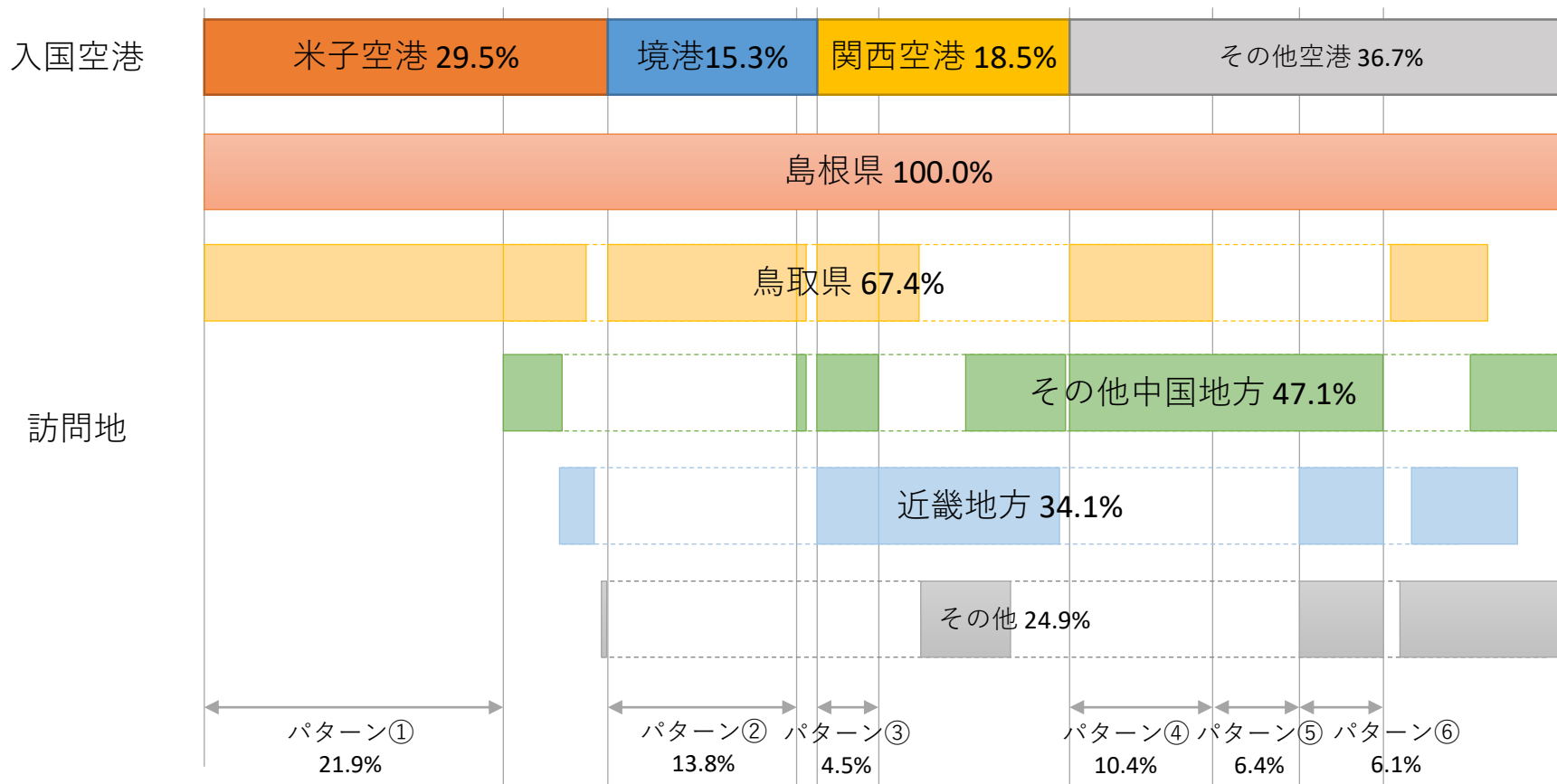


注) 上記グラフの数値は観光庁「訪日外国人消費動向調査」の結果から導出した推計値。標本調査であり、母集団復元推計は行っているが、標本誤差が含まれる点に留意が必要。本資料では「観光・レジャー」目的の訪日外国人のみを集計対象としており、ビジネス客やMICE客、親族・知人訪問客、留学生などは含まれない。「旅行消費額」にはパッケージツアー参加費の国内収入分が含まれ、都道府県間交通費は含まれない。

# 【島根県訪問者】観光客の訪問パターン（18-19年）

米子空港から入国し鳥取県と組み合わせて訪問するパターンが最も多い。

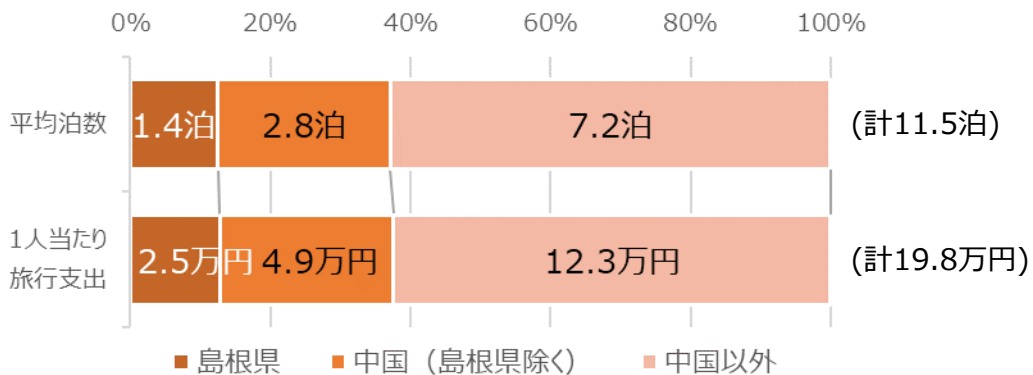
例えば、パターン①は米子空港から入国し島根県と鳥取県を訪問した旅行者の割合が21.9%であること、パターン②は境港から入国し島根県と鳥取県を訪問した旅行者の割合が13.8%であることを示している。



注) 数値は観光庁「訪日外国人消費動向調査」の結果から導出した推計値。標本調査であり、母集団復元推計は行っているが、標本誤差が含まれる点に留意が必要。本資料では「観光・レジャー」目的の訪日外国人のみを集計対象としており、ビジネス客やMICE客、親族・知人訪問客、留学生などは含まれない。訪問地に入出国空港への立ち寄り含まれていない。「その他中国地方」は岡山県、広島県、山口県を指す。

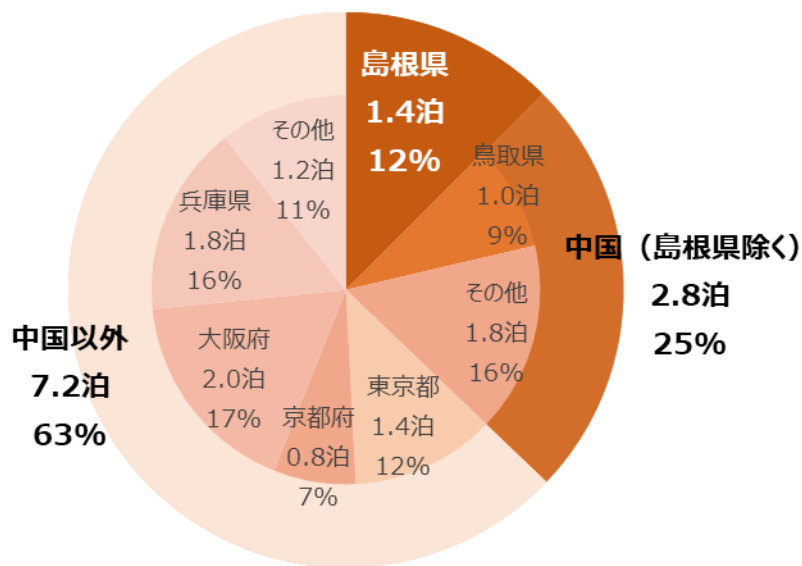
# 【島根県訪問者】平均泊数と旅行支出（2019年）

訪問地別にみる平均泊数と1人当たり旅行支出

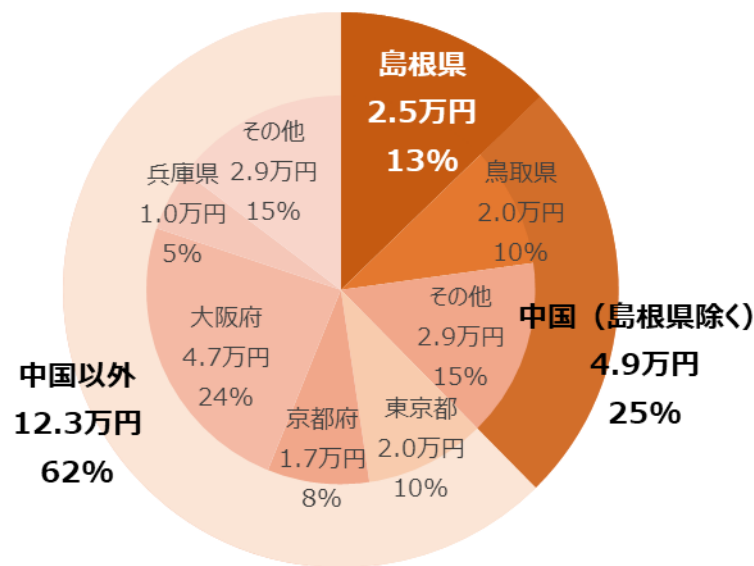


訪日旅行中に**島根県**を訪問した人を抽出し、訪日全日程の平均泊数と旅行支出をみると、**島根県**での泊数の割合は12%、旅行支出の割合は13%であった。

平均泊数の訪問地別構成比



1人当たり旅行支出の訪問地別構成比

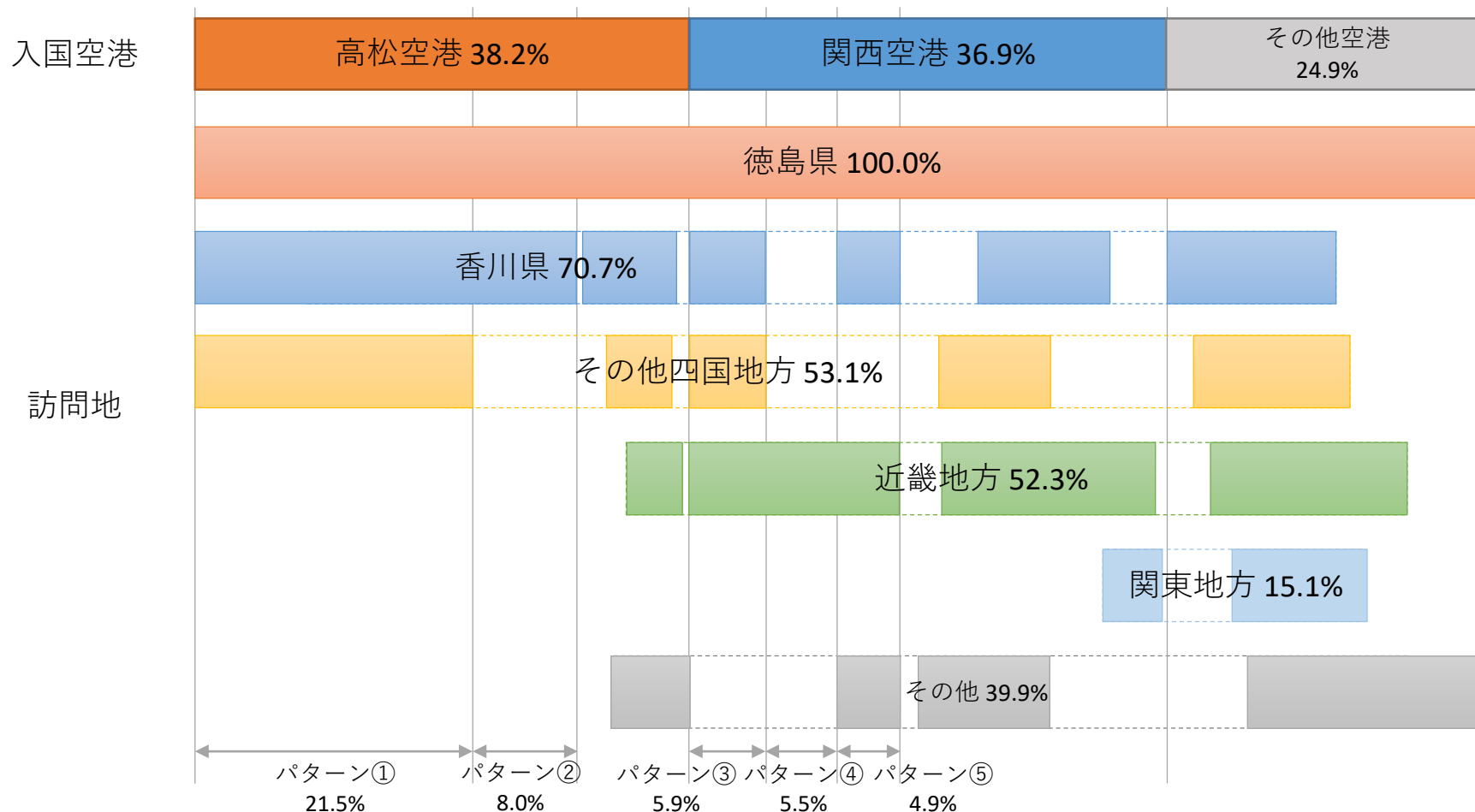


注) 上記グラフの数値は観光庁「訪日外国人消費動向調査」の結果から導出した推計値。標本調査であり、母集団復元推計は行っているが、標本誤差が含まれる点に留意が必要。本資料では「観光・レジャー」目的の訪日外国人のみを集計対象としており、ビジネス客やMICE客、親族・知人訪問客、留学生などは含まれない。「旅行消費額」にはパッケージツアー参加費の国内収入分が含まれ、都道府県間交通費は含まれない。

# 【徳島県訪問者】観光客の訪問パターン（18-19年）

高松空港や関西空港からの入国者が多い。全体の約7割が香川県と組み合わせて訪問している。

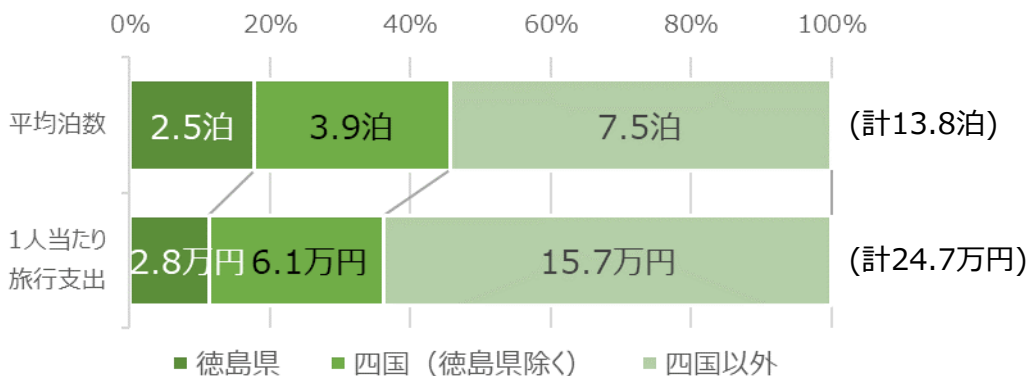
例えば、パターン①は高松空港から入国し徳島県と香川県、その他四国地方を訪問した旅行者の割合が21.5%であること、パターン③は関西空港から入国し徳島県と香川県、その他四国地方、近畿地方を訪問した旅行者の割合が5.9%であることを示している。



注) 数値は観光庁「訪日外国人消費動向調査」の結果から導出した推計値。標本調査であり、母集団復元推計は行っているが、標本誤差が含まれる点に留意が必要。本資料では「観光・レジャー」目的の訪日外国人のみを集計対象としており、ビジネス客やMICE客、親族・知人訪問客、留学生などは含まれない。訪問地に入出国空港への立ち寄り含まれていない。「その他四国地方」は愛媛県、高知県を指す。

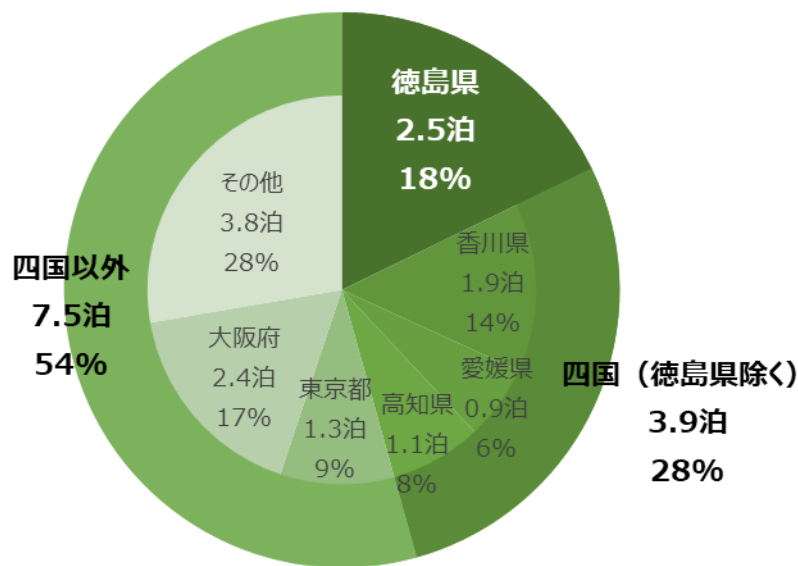
# 【徳島県訪問者】平均泊数と旅行支出（2019年）

訪問地別にみる平均泊数と1人当たり旅行支出

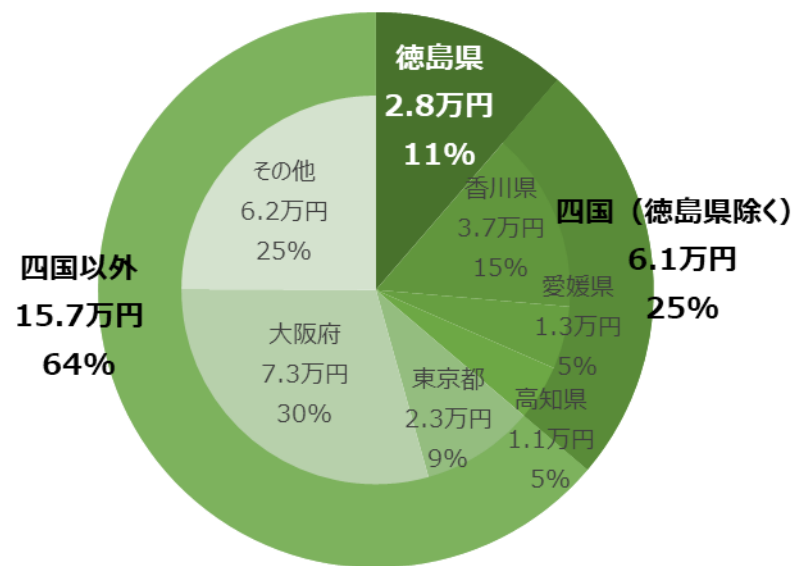


訪日旅行中に**徳島県**を訪問した人を抽出し、訪日全日程の平均泊数と旅行支出をみると、**徳島県**での泊数の割合は18%、旅行支出の割合は11%であった。

平均泊数の訪問地別構成比



1人当たり旅行支出の訪問地別構成比

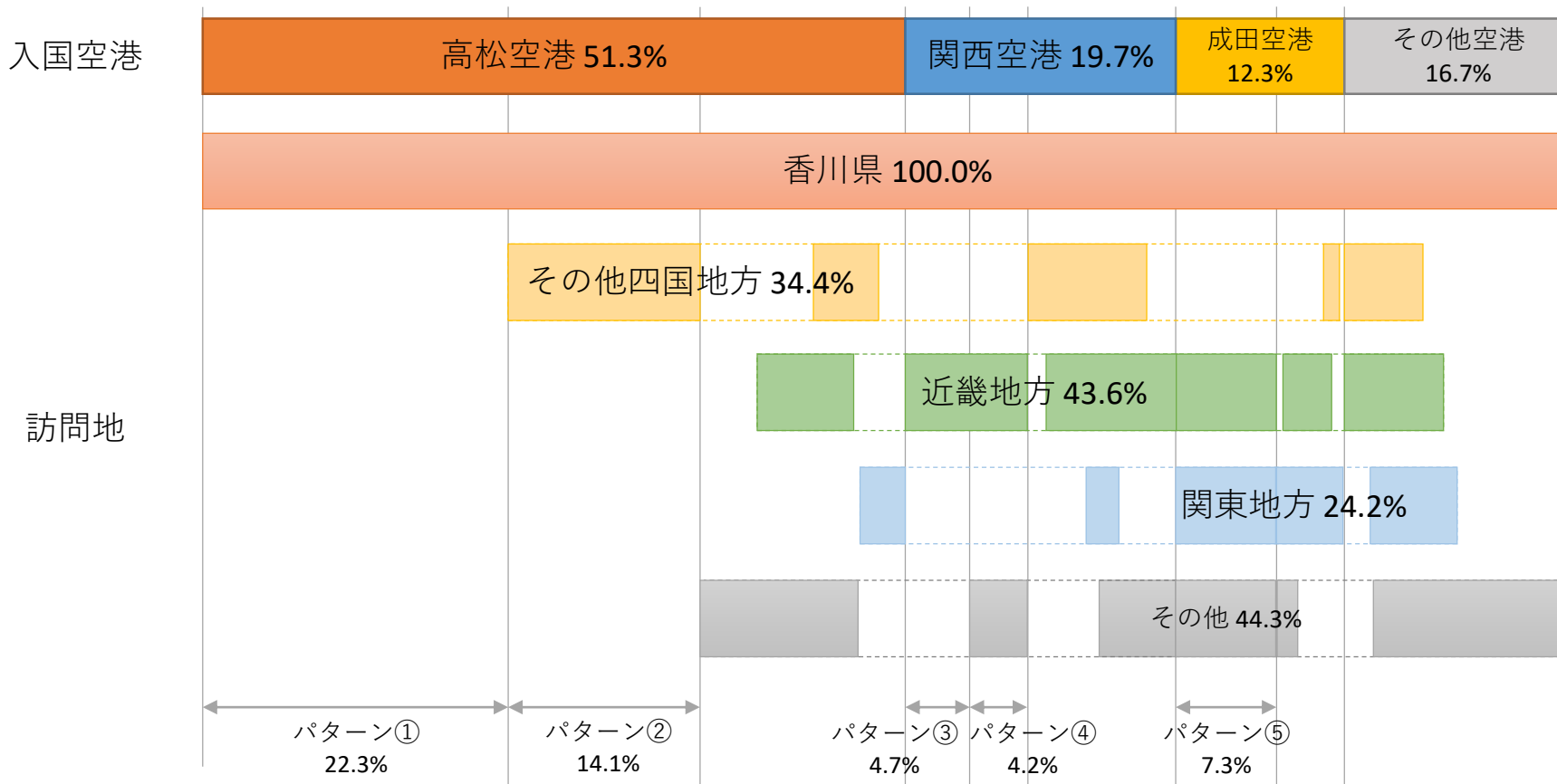


注) 上記グラフの数値は観光庁「訪日外国人消費動向調査」の結果から導出した推計値。標本調査であり、母集団復元推計は行っているが、標本誤差が含まれる点に留意が必要。本資料では「観光・レジャー」目的の訪日外国人のみを集計対象としており、ビジネス客やMICE客、親族・知人訪問客、留学生などは含まれない。「旅行消費額」にはパッケージツアー参加費の国内収入分が含まれ、都道府県間交通費は含まれない。

# 【香川県訪問者】観光客の訪問パターン（18-19年）

香川県のみを訪問するパターンが最も多い。4割以上は**近畿地方**と組み合わせて訪問している。

例えば、パターン①は高松空港から入国し香川県のみを訪問した旅行者の割合が22.3%であること、パターン③は関西空港から入国し香川県と近畿地方を訪問した旅行者の割合が4.7%であることを示している。

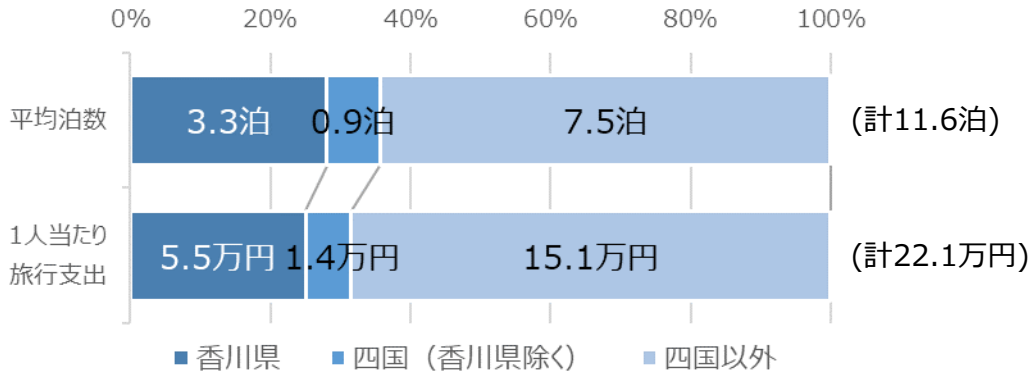


注) 数値は観光庁「訪日外国人消費動向調査」の結果から導出した推計値。標本調査であり、母集団復元推計は行っているが、標本誤差が含まれる点に留意が必要。本資料では「観光・レジャー」目的の訪日外国人のみを集計対象としており、ビジネス客やMICE客、親族・知人訪問客、留学生などは含まれない。訪問地に入出国空港への立ち寄り含まれていない。「その他四国地方」は徳島県、愛媛県、高知県を指す。



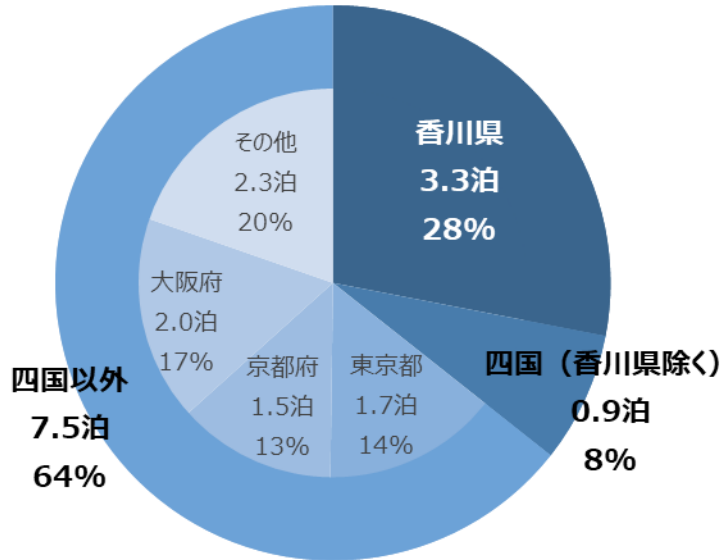
# 【香川県訪問者】平均泊数と旅行支出（2019年）

訪問地別にみる平均泊数と1人当たり旅行支出

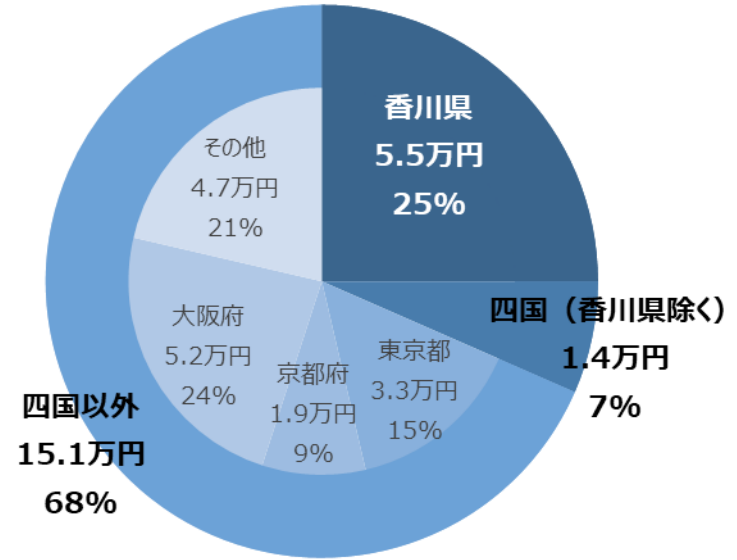


訪日旅行中に**香川県**を訪問した人を抽出し、訪日全日程の平均泊数と旅行支出をみると、**香川県**での泊数の割合は28%、旅行支出の割合は25%であった。

平均泊数の訪問地別構成比



1人当たり旅行支出の訪問地別構成比

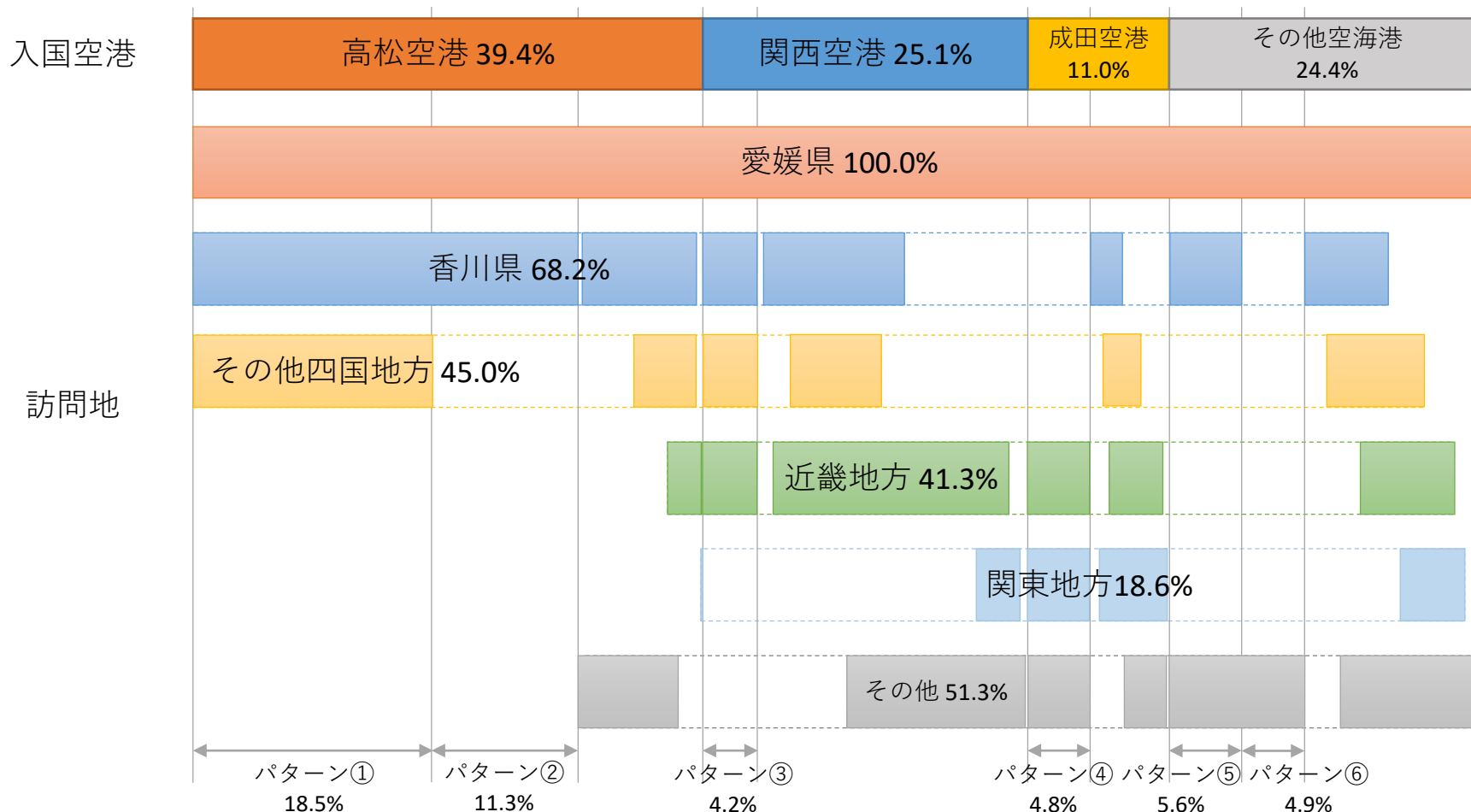


注) 上記グラフの数値は観光庁「訪日外国人消費動向調査」の結果から導出した推計値。標本調査であり、母集団復元推計は行っているが、標本誤差が含まれる点に留意が必要。本資料では「観光・レジャー」目的の訪日外国人のみを集計対象としており、ビジネス客やMICE客、親族・知人訪問客、留学生などは含まれない。「旅行消費額」にはパッケージツアー参加費の国内収入分が含まれ、都道府県間交通費は含まれない。

# 【愛媛県訪問者】観光客の訪問パターン（18-19年）

全体の約7割が香川県と組み合わせて訪問している。四国4県を組み合わせた訪問パターンが最も多い。

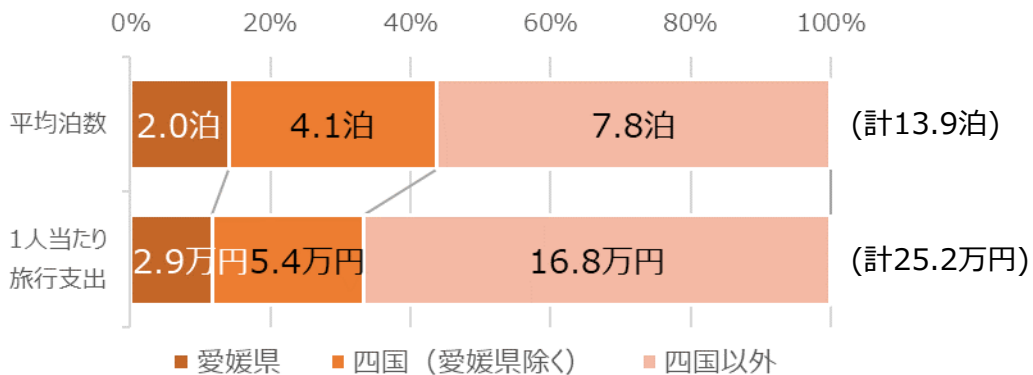
例えば、パターン①は高松空港から入国し愛媛県と香川県、その他四国地方を訪問した旅行者の割合が18.5%であること、パターン②は高松空港から入国し愛媛県と香川県を訪問した旅行者の割合が11.3%であることを示している。



注) 数値は観光庁「訪日外国人消費動向調査」の結果から導出した推計値。標本調査であり、母集団復元推計は行っているが、標本誤差が含まれる点に留意が必要。本資料では「観光・レジャー」目的の訪日外国人のみを集計対象としており、ビジネス客やMICE客、親族・知人訪問客、留学生などは含まれない。訪問地に入出国空港への立ち寄り含まれていない。「その他四国地方」は徳島県、高知県を指す。

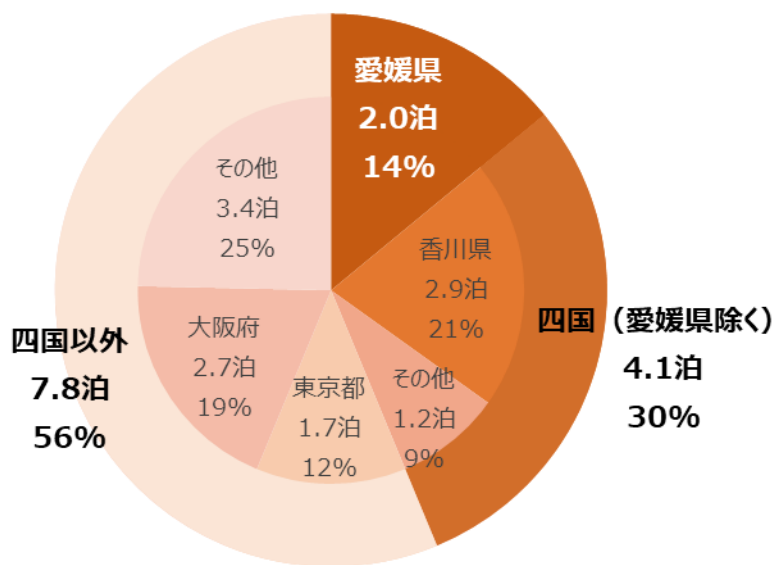
# 【愛媛県訪問者】平均泊数と旅行支出（2019年）

訪問地別にみる平均泊数と1人当たり旅行支出

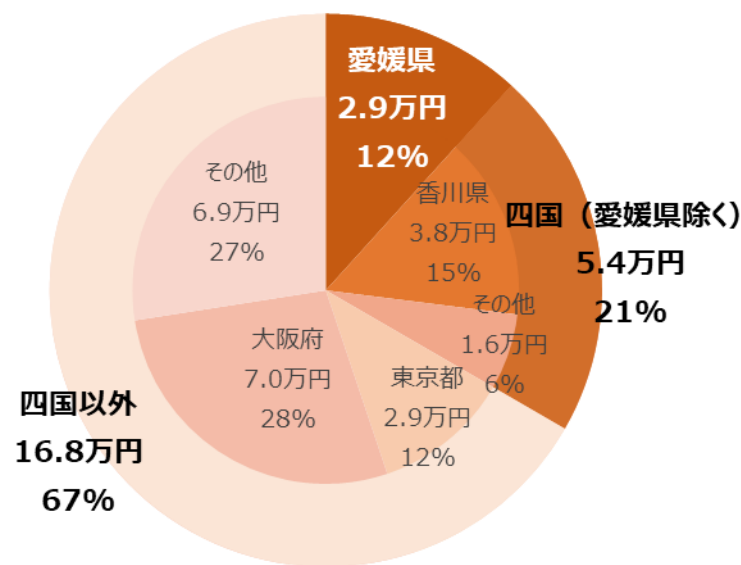


訪日旅行中に**愛媛県**を訪問した人を抽出し、訪日全日程の平均泊数と旅行支出をみると、**愛媛県**での泊数の割合は14%、旅行支出の割合は12%であった。

平均泊数の訪問地別構成比



1人当たり旅行支出の訪問地別構成比

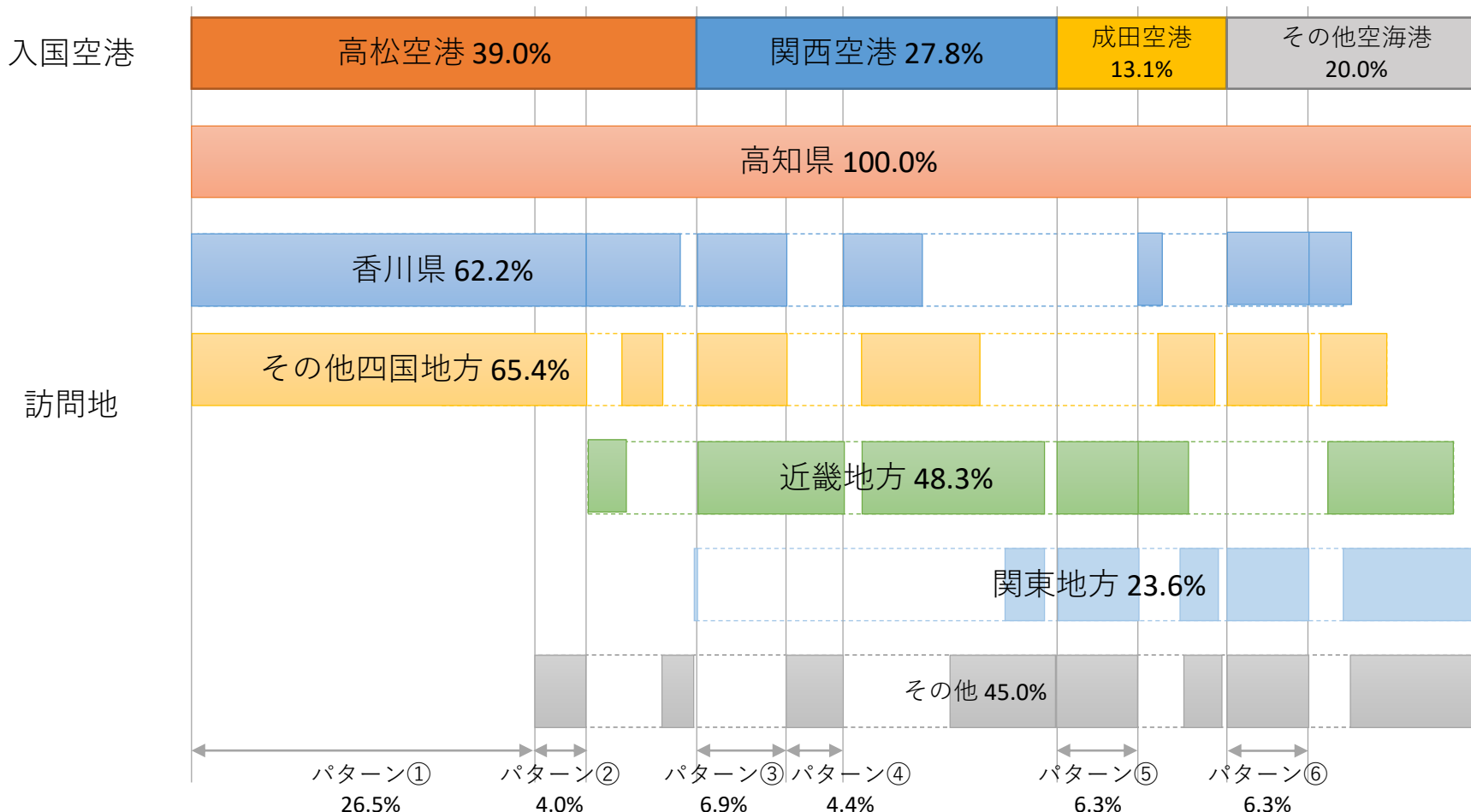


注) 上記グラフの数値は観光庁「訪日外国人消費動向調査」の結果から導出した推計値。標本調査であり、母集団復元推計は行っているが、標本誤差が含まれる点に留意が必要。本資料では「観光・レジャー」目的の訪日外国人のみを集計対象としており、ビジネス客やMICE客、親族・知人訪問客、留学生などは含まれない。「旅行消費額」にはパッケージツアー参加費の国内収入分が含まれ、都道府県間交通費は含まれない。

# 【高知県訪問者】観光客の訪問パターン（18-19年）

高松空港から入国し、**香川県**や**その他四国地方**と組み合わせて訪問するパターンが最も多い。

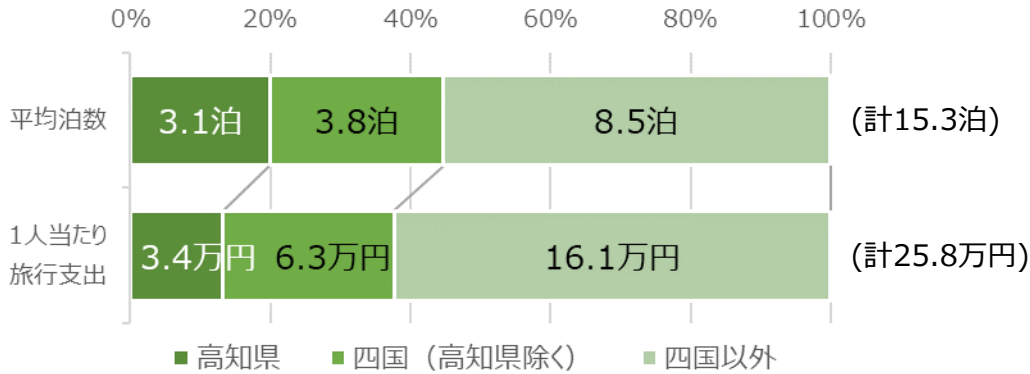
例えば、パターン①は高松空港から入国し高知県と香川県、その他四国地方を訪問した旅行者の割合が26.5%であること、パターン②は高松空港から入国し高知県と香川県、その他四国地方、その他を訪問した旅行者の割合が4.0%であることを示している。



注) 数値は観光庁「訪日外国人消費動向調査」の結果から導出した推計値。標本調査であり、母集団復元推計は行っているが、標本誤差が含まれる点に留意が必要。本資料では「観光・レジャー」目的の訪日外国人のみを集計対象としており、ビジネス客やMICE客、親族・知人訪問客、留学生などは含まれない。訪問地に入出国空港への立ち寄り含まれていない。「その他四国地方」は徳島県、愛媛県を指す。

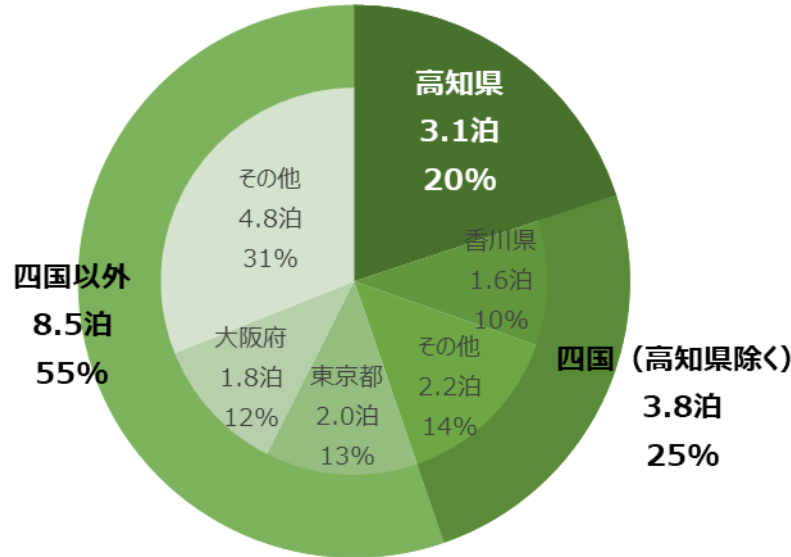
# 【高知県訪問者】平均泊数と旅行支出（2019年）

訪問地別にみる平均泊数と1人当たり旅行支出

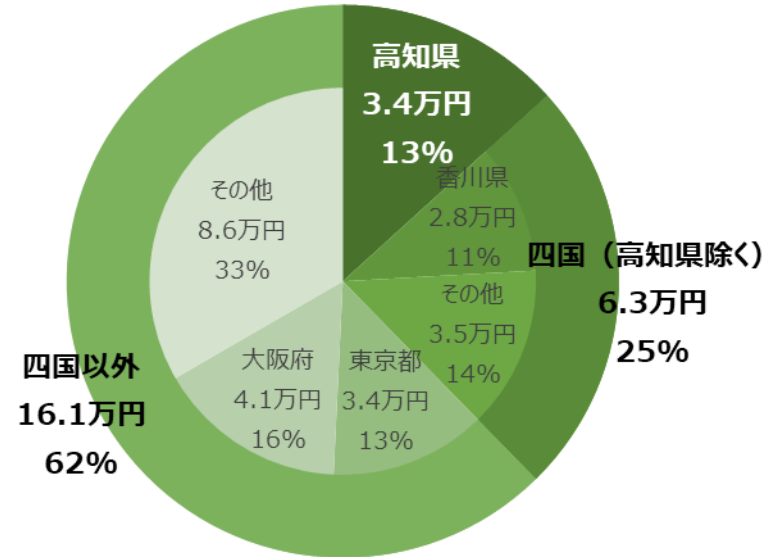


訪日旅行中に**高知県**を訪問した人を抽出し、訪日全日程の平均泊数と旅行支出をみると、**高知県**での泊数の割合は20%、旅行支出の割合は13%であった。

平均泊数の訪問地別構成比



1人当たり旅行支出の訪問地別構成比



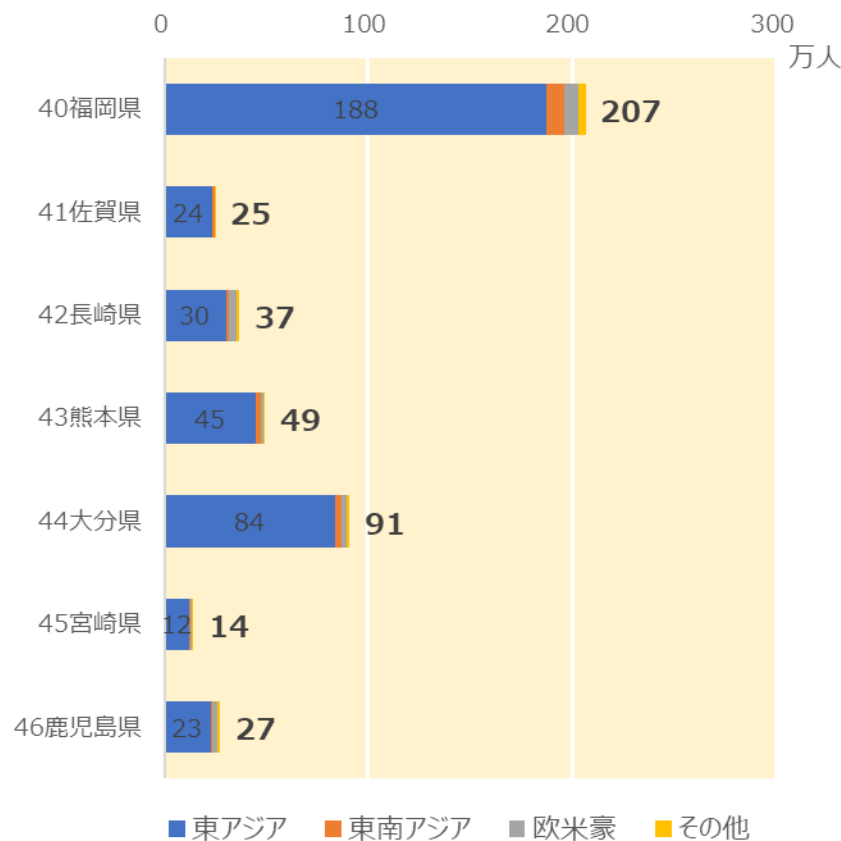
注) 上記グラフの数値は観光庁「訪日外国人消費動向調査」の結果から導出した推計値。標本調査であり、母集団復元推計は行っているが、標本誤差が含まれる点に留意が必要。本資料では「観光・レジャー」目的の訪日外国人のみを集計対象としており、ビジネス客やMICE客、親族・知人訪問客、留学生などは含まれない。「旅行消費額」にはパッケージツアー参加費の国内収入分が含まれ、都道府県間交通費は含まれない。

# 【九州地方】訪日観光客の県毎の訪問者数（推計）

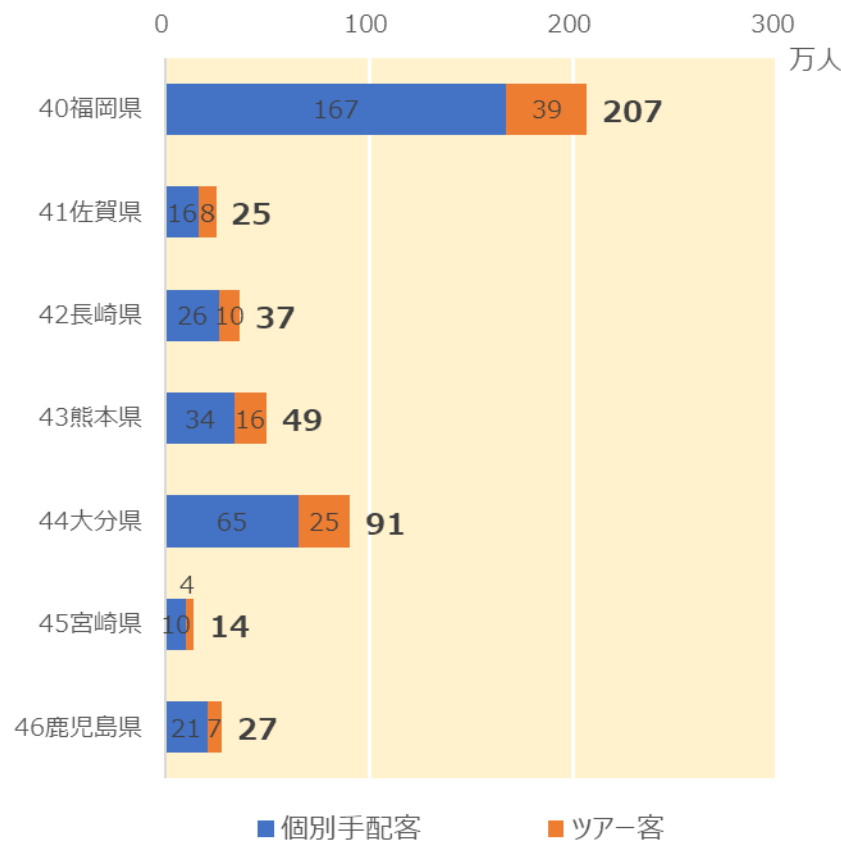
九州地方内の各県を訪れた観光・レジャー目的の訪日外国人旅行者数は**福岡県**が最も多く、次いで**大分県**が多い。いずれの県も他の地域と比較して**東アジア**からの観光客の割合が大きい。

2019年

観光・レジャー目的客【国籍・地域別】



観光・レジャー目的客【旅行手配方法別】



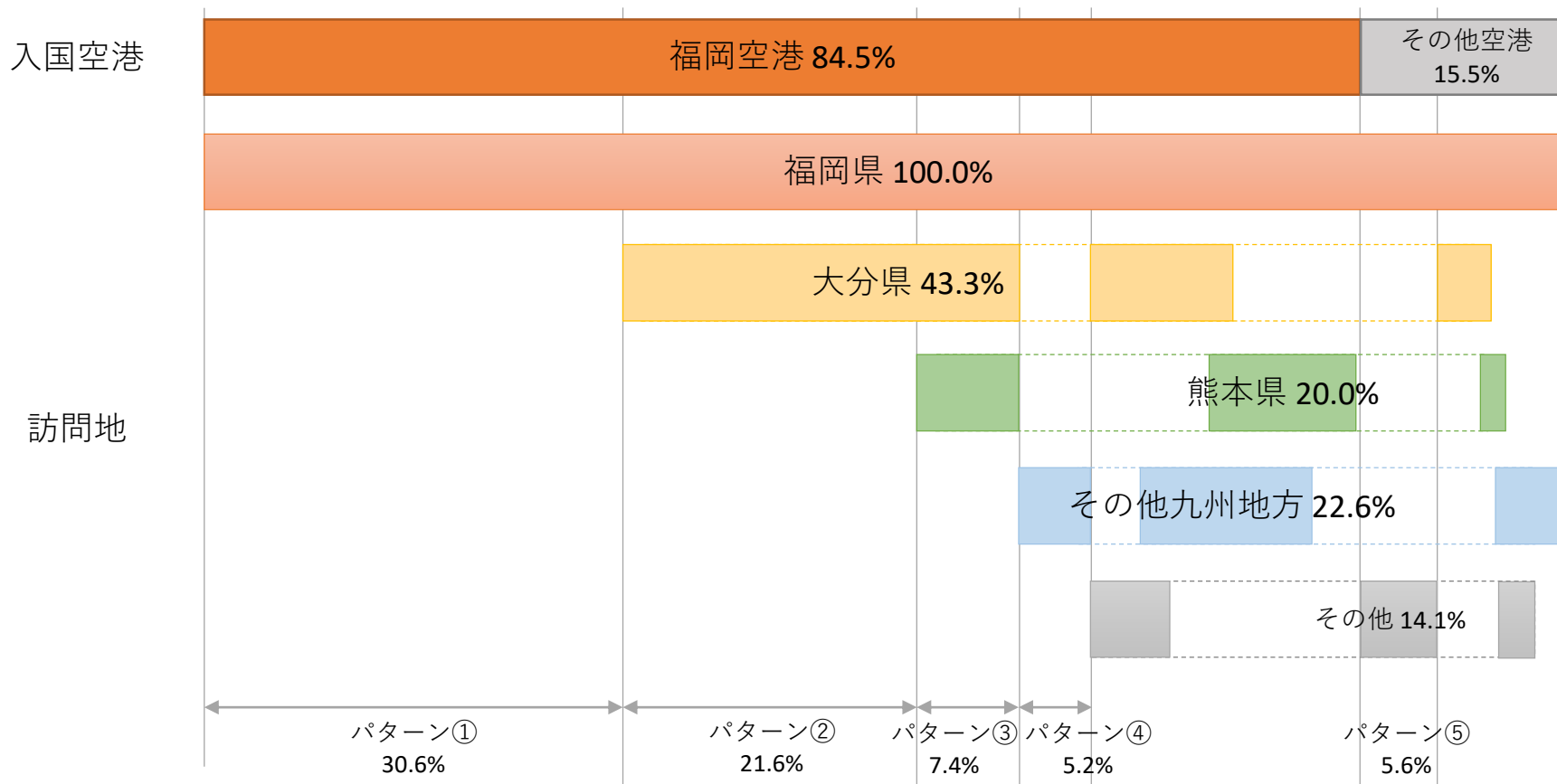
注) 上記グラフの数値は観光庁「訪日外国人消費動向調査」の結果から導出した推計値。標本調査であり、母集団復元推計は行っているが、標本誤差が含まれる点に留意が必要。「観光・レジャー」目的の訪日外国人のみを集計しており、ビジネス客やMICE客、親族・知人訪問客、留学生などを含まない。

東アジア：韓国・台湾・香港・中国、東南アジア：タイ・シンガポール・マレーシア・インドネシア・フィリピン・ベトナム、欧米豪：英国、ドイツ、フランス、イタリア、スペイン、米国、カナダ、豪州

# 【福岡県訪問者】観光客の訪問パターン（18-19年）

福岡空港から入国し、**福岡県のみ**を訪問するパターンや、**大分県**と組み合わせて訪問するパターンが多い。

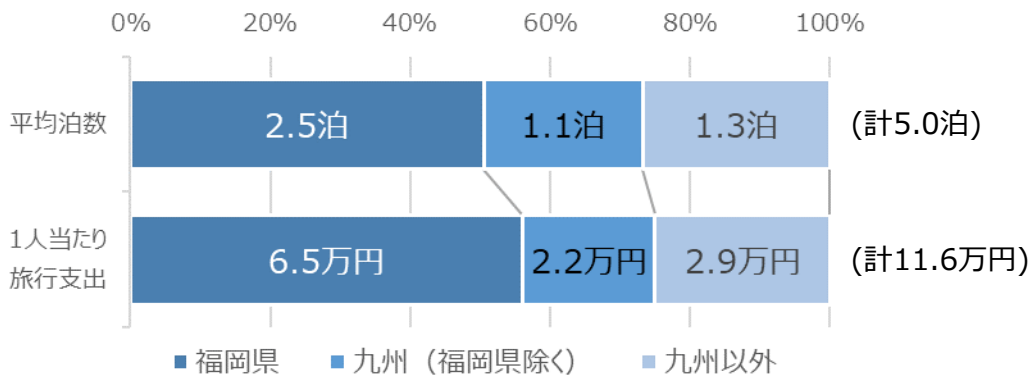
例えば、パターン①は福岡空港から入国し福岡県のみを訪問した旅行者の割合が30.6%であること、パターン②は福岡空港から入国し福岡県と大分県を訪問した旅行者の割合が21.6%であることを示している。



注) 数値は観光庁「訪日外国人消費動向調査」の結果から導出した推計値。標本調査であり、母集団復元推計は行っているが、標本誤差が含まれる点に留意が必要。本資料では「観光・レジャー」目的の訪日外国人のみを集計対象としており、ビジネス客やMICE客、親族・知人訪問客、留学生などは含まれない。訪問地に入出国空港への立ち寄り含まれていない。「その他九州地方」は佐賀県、長崎県、宮崎県、鹿児島県を指す。

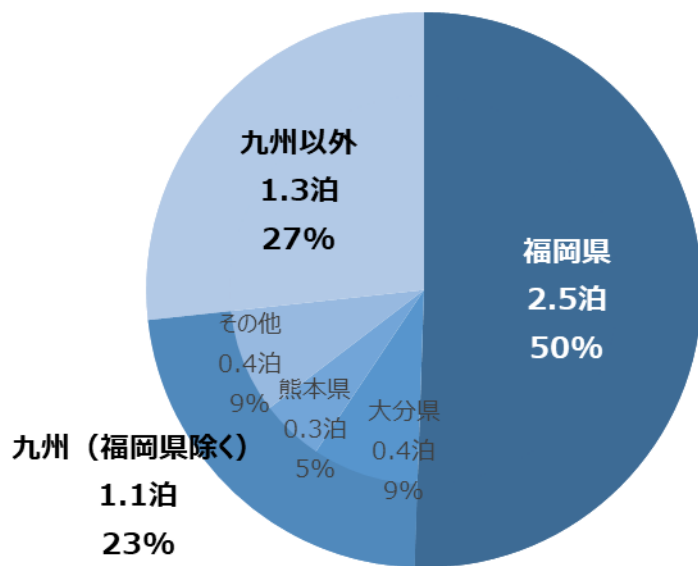
# 【福岡県訪問者】平均泊数と旅行支出（2019年）

訪問地別にみる平均泊数と1人当たり旅行支出

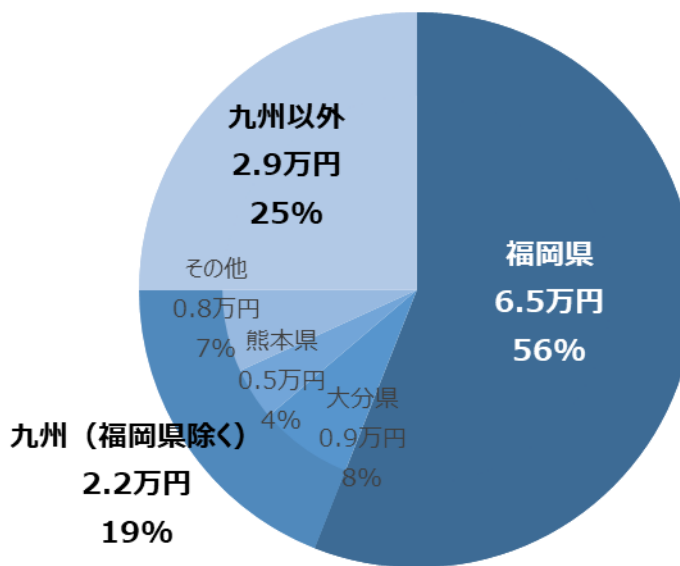


訪日旅行中に**福岡県**を訪問した人を抽出し、訪日全日程の平均泊数と旅行支出をみると、**福岡県**での泊数の割合は50%、旅行支出の割合は56%であった。

平均泊数の訪問地別構成比



1人当たり旅行支出の訪問地別構成比



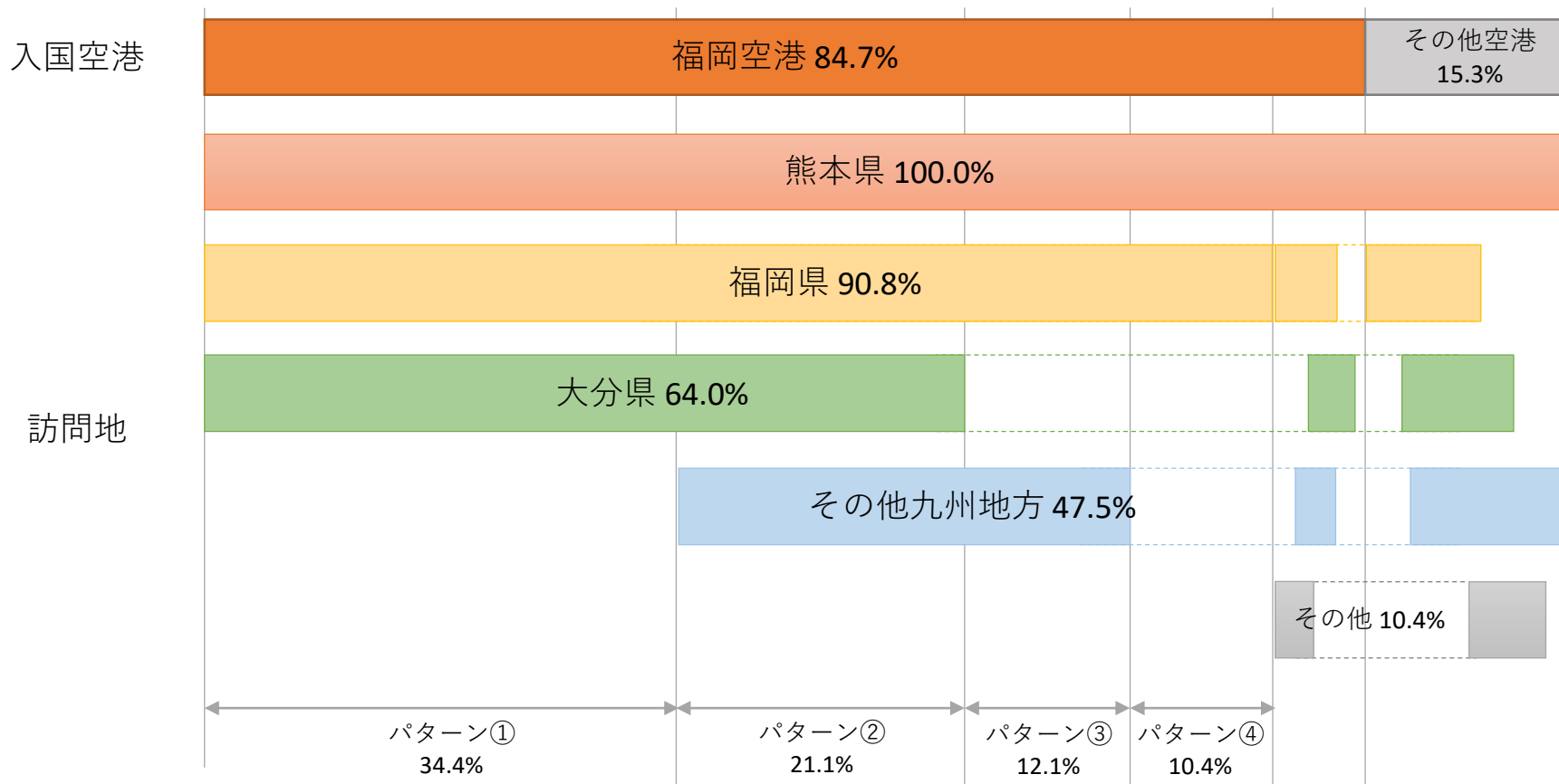
注) 上記グラフの数値は観光庁「訪日外国人消費動向調査」の結果から導出した推計値。標本調査であり、母集団復元推計は行っているが、標本誤差が含まれる点に留意が必要。本資料では「観光・レジャー」目的の訪日外国人のみを集計対象としており、ビジネス客やMICE客、親族・知人訪問客、留学生などは含まれない。「旅行消費額」にはパッケージツアー参加費の国内収入分が含まれ、都道府県間交通費は含まれない。



# 【熊本県訪問者】観光客の訪問パターン（18-19年）

福岡空港からの入国者が多い。全体の約9割が福岡県、約6割が大分県と組み合わせて訪問している。

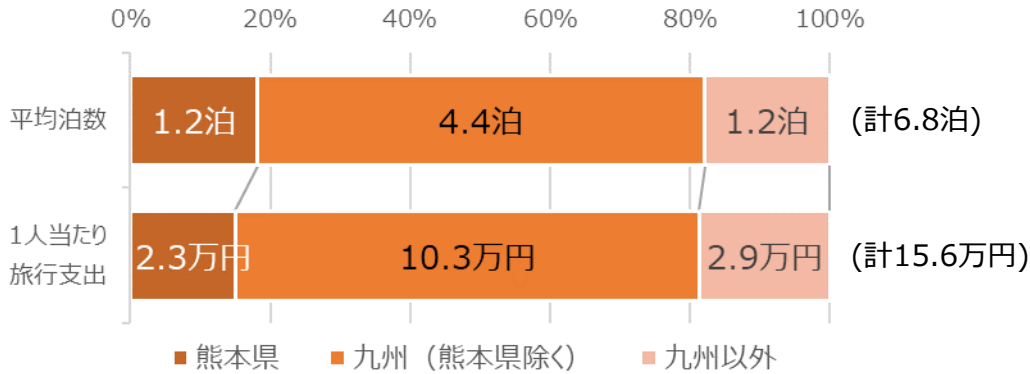
例えば、パターン①は福岡空港から入国し熊本県と福岡県、大分県を訪問した旅行者の割合が34.4%であること、パターン②は福岡空港から入国し熊本県と福岡県、大分県、その他九州地方を訪問した旅行者の割合が21.1%であることを示している。



注) 数値は観光庁「訪日外国人消費動向調査」の結果から導出した推計値。標本調査であり、母集団復元推計は行っているが、標本誤差が含まれる点に留意が必要。本資料では「観光・レジャー」目的の訪日外国人のみを集計対象としており、ビジネス客やMICE客、親族・知人訪問客、留学生などは含まれない。訪問地に入出国空港への立ち寄り含まれていない。「その他九州地方」は佐賀県、長崎県、宮崎県、鹿児島県を指す。

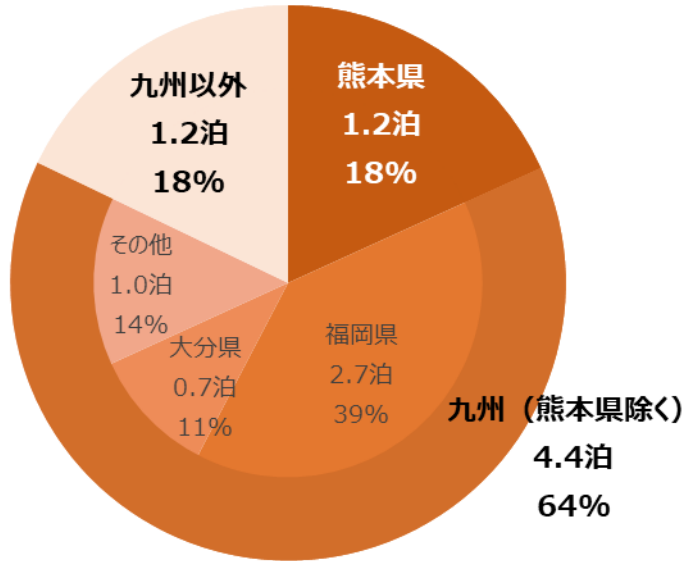
# 【熊本県訪問者】平均泊数と旅行支出（2019年）

訪問地別にみる平均泊数と1人当たり旅行支出

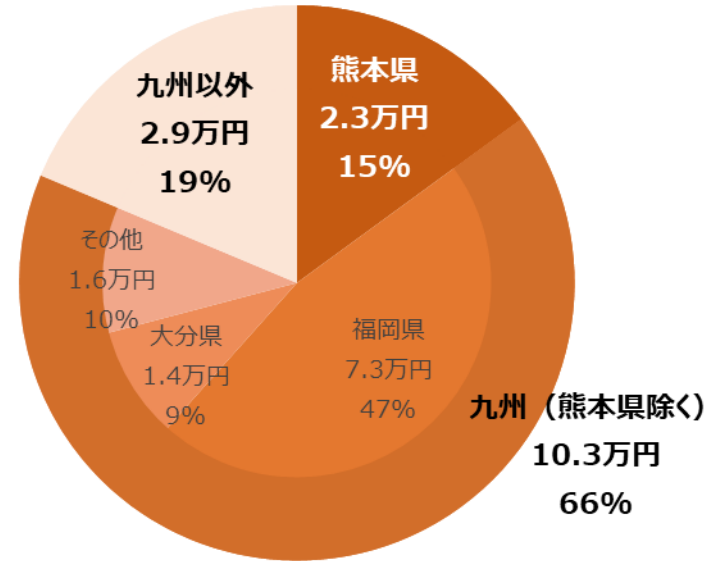


訪日旅行中に**熊本県**を訪問した人を抽出し、訪日全日程の平均泊数と旅行支出をみると、**熊本県**での泊数の割合は18%、旅行支出の割合は15%であった。

平均泊数の訪問地別構成比



1人当たり旅行支出の訪問地別構成比

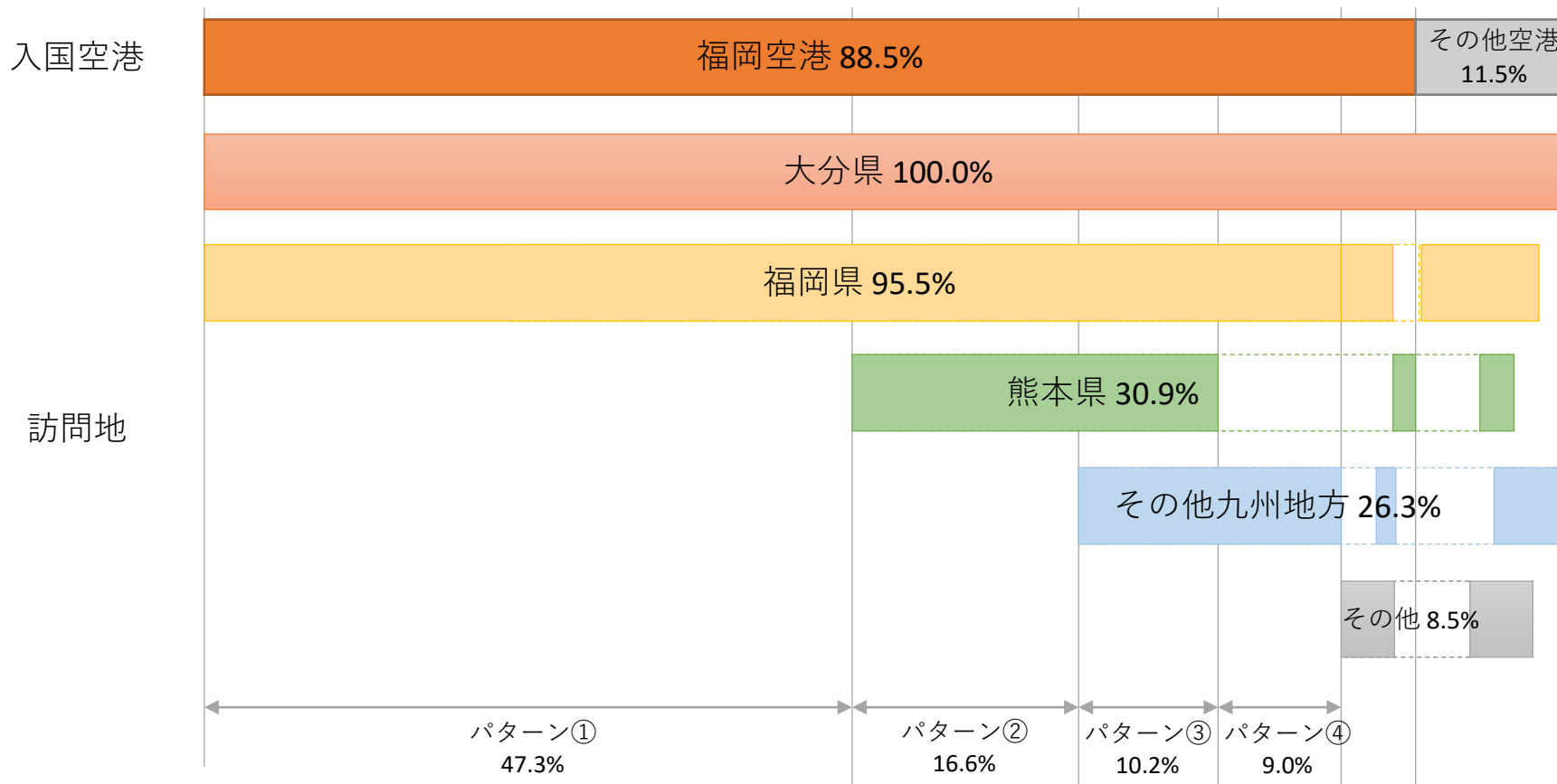


注) 上記グラフの数値は観光庁「訪日外国人消費動向調査」の結果から導出した推計値。標本調査であり、母集団復元推計は行っているが、標本誤差が含まれる点に留意が必要。本資料では「観光・レジャー」目的の訪日外国人のみを集計対象としており、ビジネス客やMICE客、親族・知人訪問客、留学生などは含まれない。「旅行消費額」にはパッケージツアー参加費の国内収入分が含まれ、都道府県間交通費は含まれない。

# 【大分県訪問者】観光客の訪問パターン（18-19年）

福岡空港から入国し福岡県と組み合わせて訪問するパターンが最も多い。

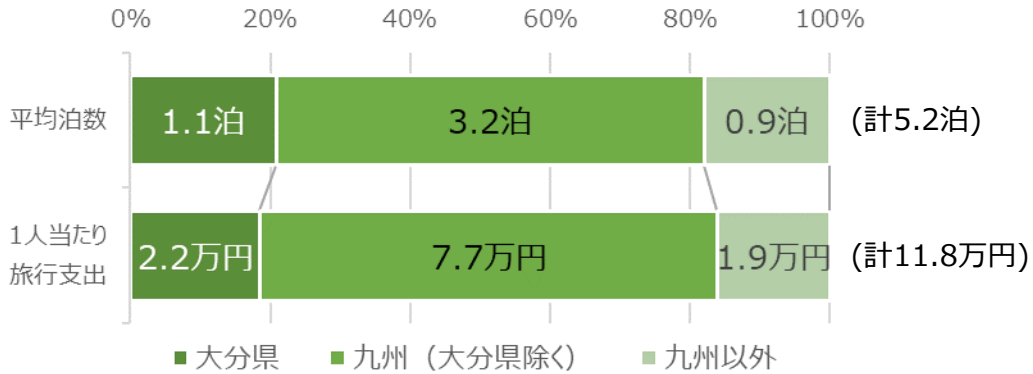
例えば、パターン①は福岡空港から入国し大分県と福岡県を訪問した旅行者の割合が47.3%であること、パターン②は福岡空港から入国し大分県と福岡県、熊本県を訪問した旅行者の割合が16.6%であることを示している。



注) 数値は観光庁「訪日外国人消費動向調査」の結果から導出した推計値。標本調査であり、母集団復元推計は行っているが、標本誤差が含まれる点に留意が必要。本資料では「観光・レジャー」目的の訪日外国人のみを集計対象としており、ビジネス客やMICE客、親族・知人訪問客、留学生などは含まれない。訪問地に入出国空港への立ち寄り含まれていない。「その他九州地方」は佐賀県、長崎県、宮崎県、鹿児島県を指す。

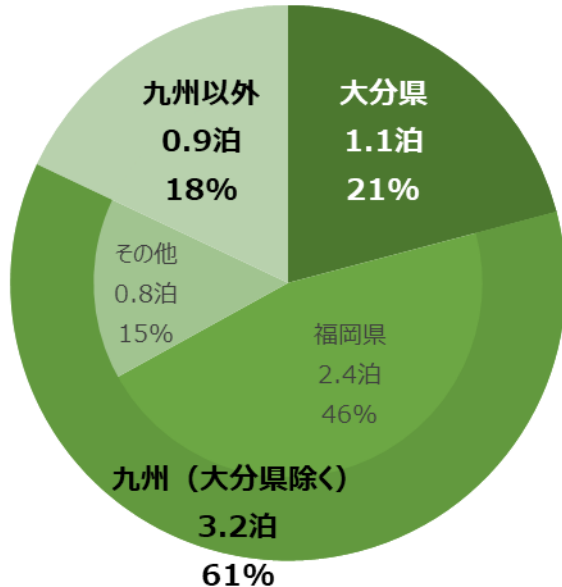
# 【大分県訪問者】平均泊数と旅行支出（2019年）

訪問地別にみる平均泊数と1人当たり旅行支出

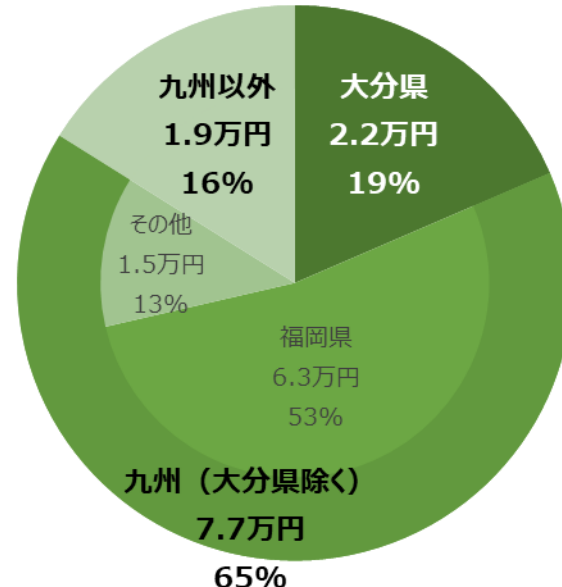


訪日旅行中に**大分県**を訪問した人を抽出し、訪日全日程の平均泊数と旅行支出をみると、**大分県**での泊数の割合は21%、旅行支出の割合は19%であった。

平均泊数の訪問地別構成比



1人当たり旅行支出の訪問地別構成比

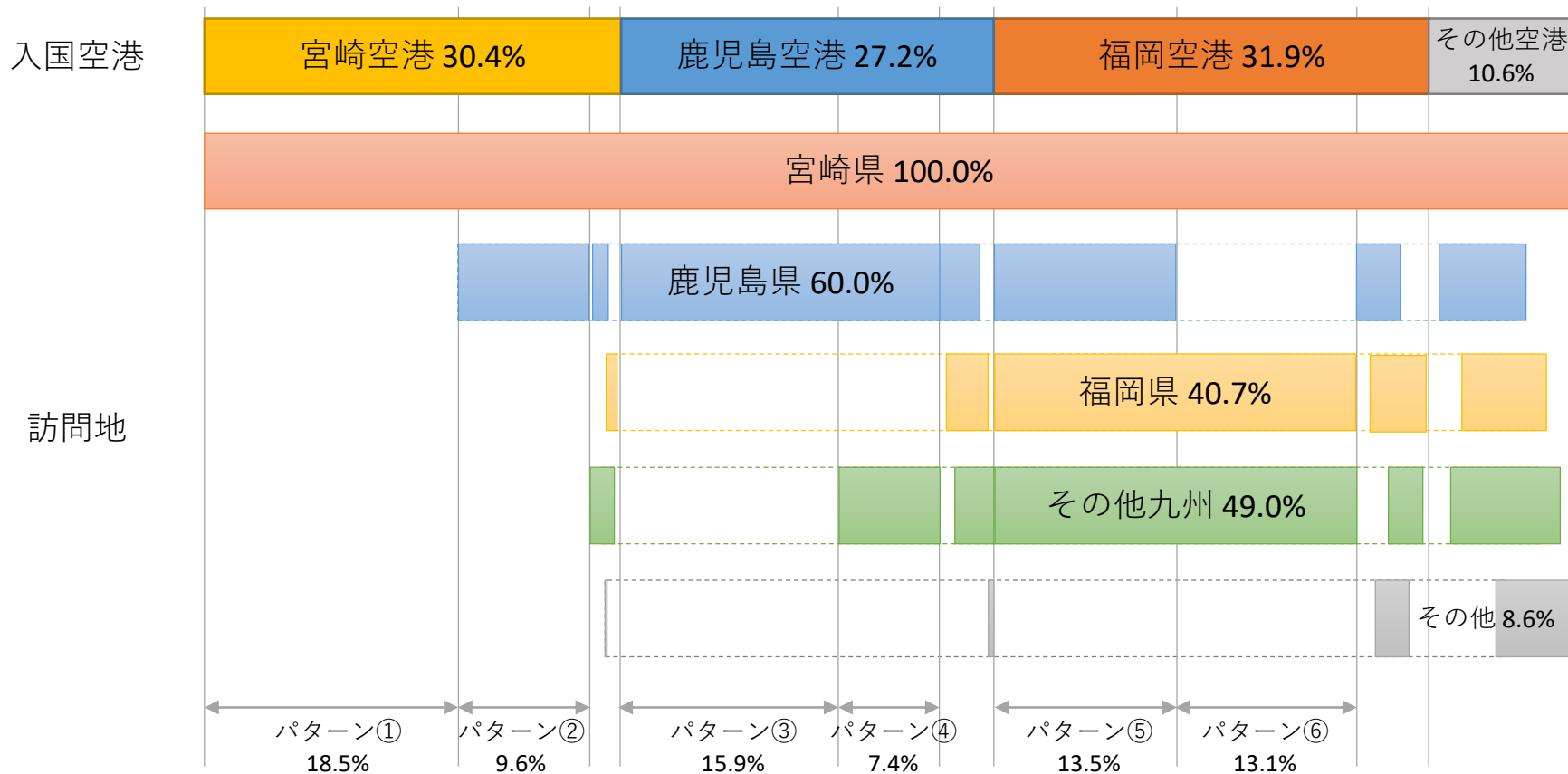


注) 上記グラフの数値は観光庁「訪日外国人消費動向調査」の結果から導出した推計値。標本調査であり、母集団復元推計は行っているが、標本誤差が含まれる点に留意が必要。本資料では「観光・レジャー」目的の訪日外国人のみを集計対象としており、ビジネス客やMICE客、親族・知人訪問客、留学生などは含まれない。「旅行消費額」にはパッケージツアー参加費の国内収入分が含まれ、都道府県間交通費は含まれない。

# 【宮崎県訪問者】観光客の訪問パターン（18-19年）

全体の約6割が鹿児島県と組み合わせて訪問している。宮崎空港からの入国者は宮崎県のみを訪問も多い。

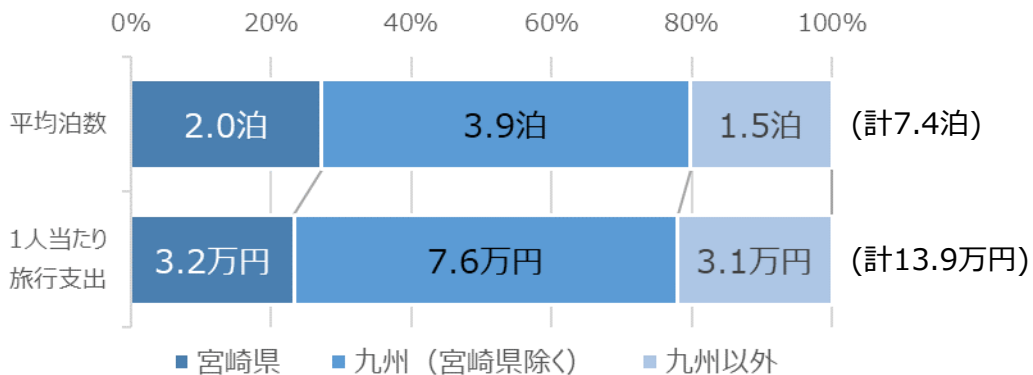
例えば、パターン①は宮崎空港から入国し宮崎県のみを訪問した旅行者の割合が18.5%であること、パターン③は鹿児島空港から入国し宮崎県と鹿児島県を訪問した旅行者の割合が15.9%であることを示している。



注) 数値は観光庁「訪日外国人消費動向調査」の結果から導出した推計値。標本調査であり、母集団復元推計は行っているが、標本誤差が含まれる点に留意が必要。本資料では「観光・レジャー」目的の訪日外国人のみを集計対象としており、ビジネス客やMICE客、親族・知人訪問客、留学生などは含まれない。訪問地に入出国空港への立ち寄り含まれていない。「その他九州地方」は佐賀県、長崎県、熊本県、大分県を指す。

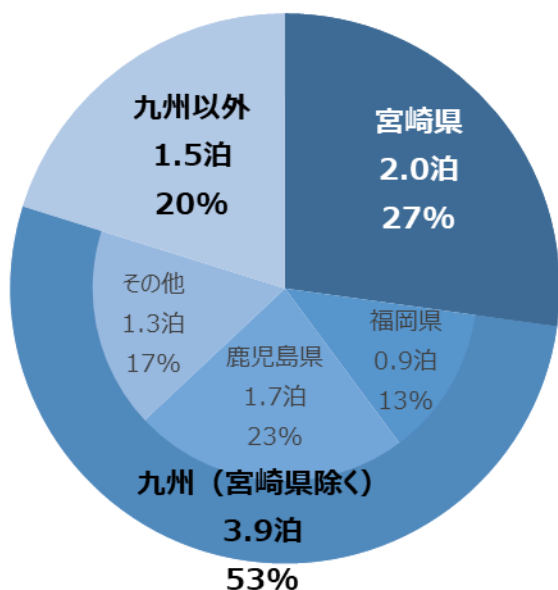
# 【宮崎県訪問者】平均泊数と旅行支出（2019年）

訪問地別にみる平均泊数と1人当たり旅行支出

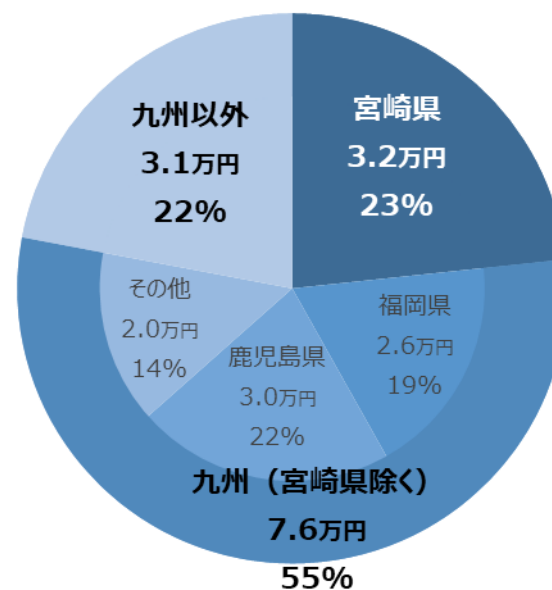


訪日旅行中に**宮崎県**を訪問した人を抽出し、訪日全日程の平均泊数と旅行支出をみると、**宮崎県**での泊数の割合は27%、旅行支出の割合は23%であった。

平均泊数の訪問地別構成比



1人当たり旅行支出の訪問地別構成比

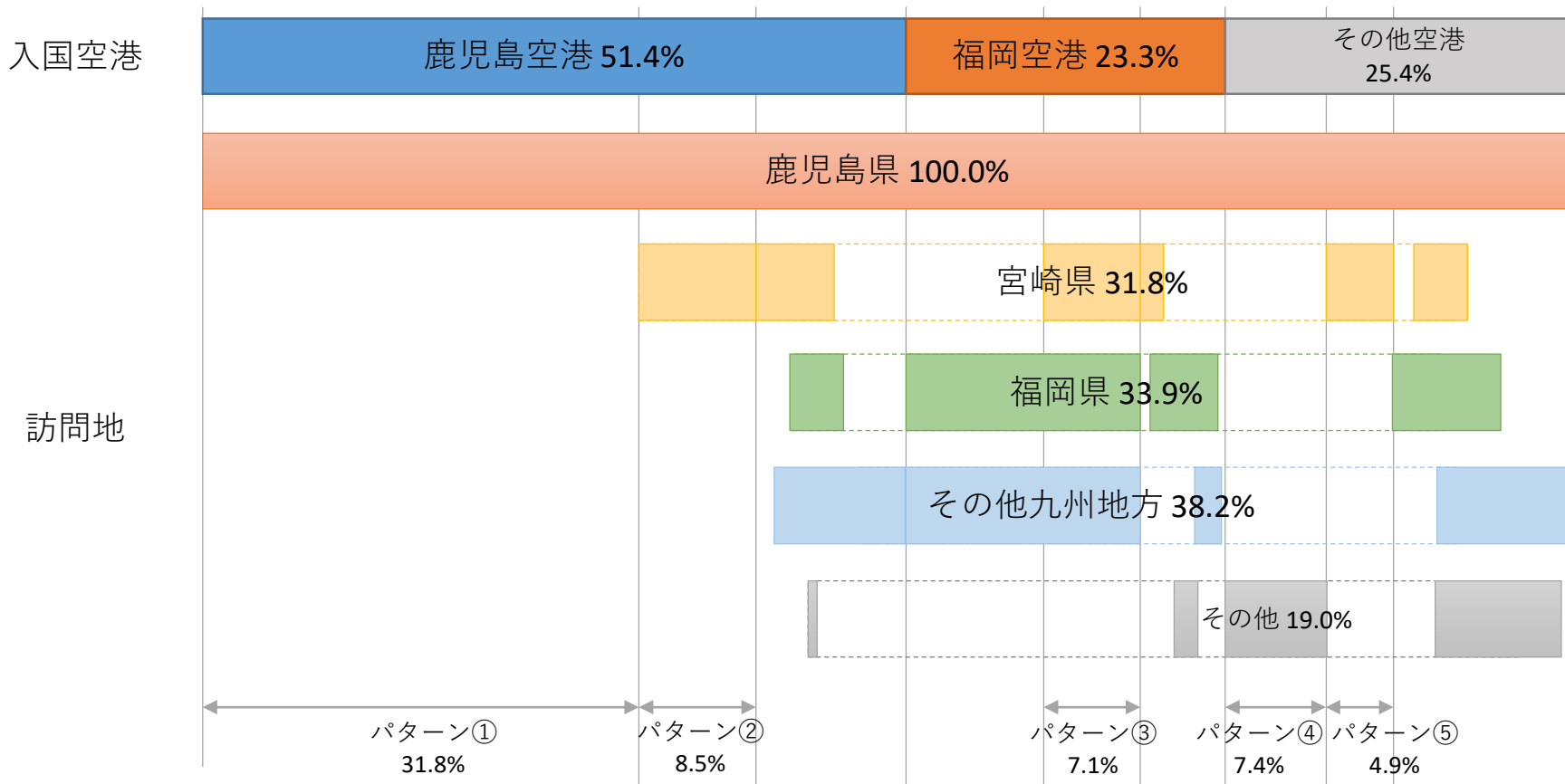


注) 上記グラフの数値は観光庁「訪日外国人消費動向調査」の結果から導出した推計値。標本調査であり、母集団復元推計は行っているが、標本誤差が含まれる点に留意が必要。本資料では「観光・レジャー」目的の訪日外国人のみを集計対象としており、ビジネス客やMICE客、親族・知人訪問客、留学生などは含まれない。「旅行消費額」にはパッケージツアー参加費の国内収入分が含まれ、都道府県間交通費は含まれない。

# 【鹿児島県訪問者】観光客の訪問パターン（18-19年）

鹿児島空港からの入国者が約半数を占める。鹿児島県のみを訪問するパターンが最も多い。

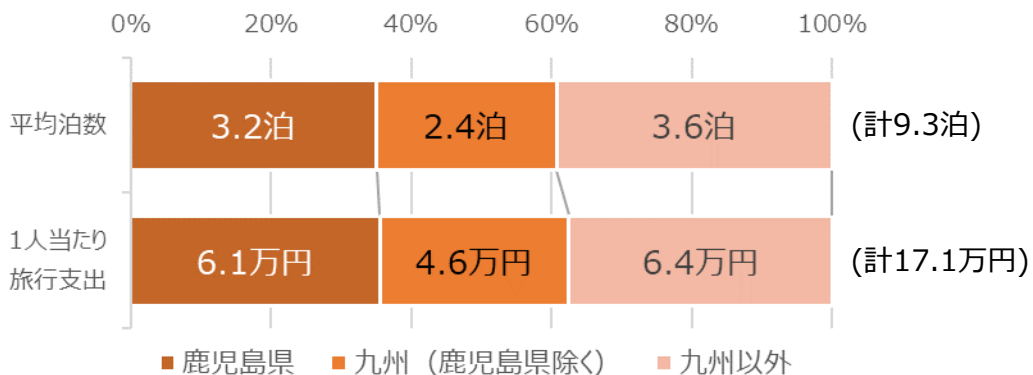
例えば、パターン①は鹿児島空港から入国し鹿児島県のみを訪問した旅行者の割合が31.8%であること、パターン②は鹿児島空港から入国し鹿児島県と宮崎県を訪問した旅行者の割合が8.5%であることを示している。



注) 数値は観光庁「訪日外国人消費動向調査」の結果から導出した推計値。標本調査であり、母集団復元推計は行っているが、標本誤差が含まれる点に留意が必要。本資料では「観光・レジャー」目的の訪日外国人のみを集計対象としており、ビジネス客やMICE客、親族・知人訪問客、留学生などは含まれない。訪問地に入出国空港への立ち寄り含まれていない。「その他九州地方」は佐賀県、長崎県、熊本県、大分県を指す。

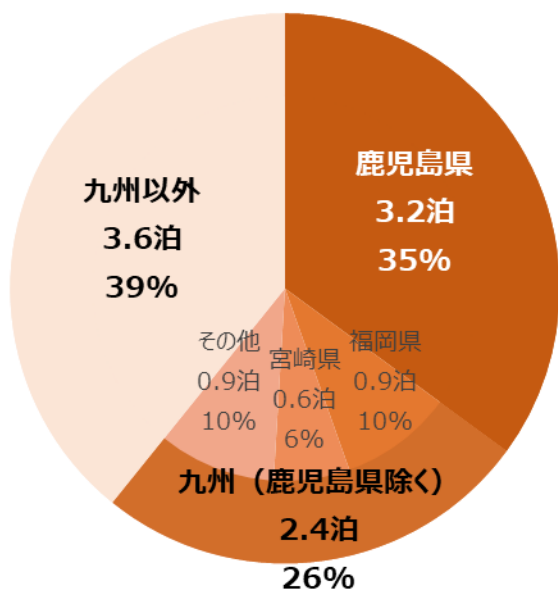
# 【鹿児島県訪問者】平均泊数と旅行支出（2019年）

訪問地別にみる平均泊数と1人当たり旅行支出

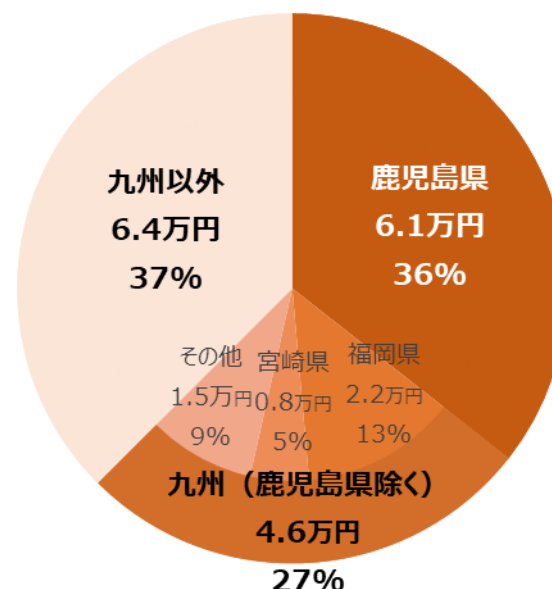


訪日旅行中に**鹿児島県**を訪問した人を抽出し、訪日全日程の平均泊数と旅行支出をみると、**鹿児島県**での泊数の割合は35%、旅行支出の割合は36%であった。

平均泊数の訪問地別構成比



1人当たり旅行支出の訪問地別構成比



注) 上記グラフの数値は観光庁「訪日外国人消費動向調査」の結果から導出した推計値。標本調査であり、母集団復元推計は行っているが、標本誤差が含まれる点に留意が必要。本資料では「観光・レジャー」目的の訪日外国人のみを集計対象としており、ビジネス客やMICE客、親族・知人訪問客、留学生などは含まれない。「旅行消費額」にはパッケージツアー参加費の国内収入分が含まれ、都道府県間交通費は含まれない。